明治四十年二月十五日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百七號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百七號目次

大日本婦人衛生會

總會及懇親會豫告

本會の總會は來三月二日(第一土曜日)開會の豫定に有之候處都合により來**三月下旬**懇親會を兼ね總會相開き候間右御了承相成度候也

會場時日等ハ追而相定め可申上候

明治四十年二月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を研き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに冀はざるはあらずされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相繼て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは誠に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を怠かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編刊し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸賢姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會一般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の者は姓名族稱住所及會員の稱號を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續細則に詳なり）入會後住所移轉るときは直に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三稱とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議により無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親族知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に仰ぐるものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は便宜に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の作●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員生ずるときは會は次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會評議員會とす例會は八九月を除くの外每月一回とし總會は三月に之を開く若し緊要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　例會に學識經驗ある人々に衛生上の講談演說談話を嘱托し會員をして臨時會聽せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知巳の婦人を本會々場に誘致し講談演說會を傍聽せしむることを得　但衣服は總て質素たるべきこと●第十九條　講談演說會は男子の傍聽を禁す●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て本會の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計主任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會　●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを要せず支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其費用を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に於きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件　第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を雜誌に登錄し且本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會員資金は受領證を交付べしと雖も地方會員にして小為替又は郵券にて納むるものは受領證を送として別に送信料を添へらるべし（郵券一錢）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月集金人を差出すべし地方會員は總て前金とし小為替にて本會事務所々在の郵便局（牛込區士八幡町郵便局所現）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の恥辱となるべき所以ある者又は其々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所・東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃 周子殿下
會長　侯爵夫人 鍋島榮子
副會長　瀬尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三緑子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穂子
仝　松平芳子
仝　三浦敏子
評議員　石川良子
仝　岩下ゆか子
仝　瀬田捨子
仝　長谷川仲子
仝　仁禮壽賀子
仝　四升子
仝　穂積歌子
仝　土肥多越子
仝　緒方悦子
仝　岡山とし子
仝　小川孝子
仝　男爵夫人 加藤鈴子
仝　片山總子
仝　吉武輝枝子
仝　丹波貞子
仝　高橋孝子
仝　田村きゝ子
仝　男爵夫人 南部展子
仝　中濱芳子
仝　子爵夫人 松井正子
仝　岸遊子
仝　三宅藤子
仝　宮木樂子
仝　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
●色川圀士君
醫學博士　●伊東祐彦君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
[illegible]　●岩井禎造君
醫學士　石原久君
醫學士　野瀬維一君
醫學士　●石原喜久太郎君
貴族院議員　濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　萩原綱四郎君
醫學博士　芳賀榮二郎君
長谷川泰君
新潟　●長谷川一經君
小兒科　●小原析之君
醫學博士　岡田榮吉君
醫學博士　●林春雄君
醫學博士　●佐藤達次郎君
醫學博士　●緒方正規君
步兵中佐　●堀内文次郎君
醫學博士　●土肥慶藏君
醫學博士　●岡田和一郎君
醫學博士　●大澤謙二君
醫學士　大内秀治君
醫學博士　●大澤大郎君
一等藥劑官　●恩山正信君
醫學士　●若杉喜三郎君
醫學士　渡邊房吉君
男爵　加藤弘之君
醫學博士　●加藤昭麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　●川上雅亮君
醫學博士　●隈川鎗一郎君
醫學士　●金杉英五郎君
醫學士　●笠原光興君
醫學士　●鹿澤光德君
醫學博士　●河野衛君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山紀齊君
醫學博士　高木兼寛君
法學博士　●高木哲三君
醫學博士　●田代義德君
新潟　●田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　●竹中成憲君
醫學士　●高山耕安君
[illegible]　●高橋辰五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學士　高橋貞碩君
藥學博士　田原良純君
醫學士　●田村光顕君
醫學士　●久保猪之吉君
醫學士　●米山彦郎君
二等軍醫正　●尾形保光君
醫學士　●宮本俶君
三等軍醫正　●横井忠國君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　南部甕男君
藥學博士　●長井長義君
醫學博士　●遠山椿吉君
醫學博士　●中濱東一郎君
醫學士　●黒山玄通君
醫學士　●栗本庸勝君
海軍中佐　●小笠原長生君
醫學士　村松敏三君
醫學博士　●隈川宗雄君
醫學博士　●栗木東明君
醫學士　●山山鐵三君
醫學士　●山田弘倫君
醫學士　●山根正次君
岡山　●山川吞二君
衛生試驗所技手　丸山息四郎君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●小此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
福島　小泉貫君
醫學士　●古川榮君
東京　布施正顕君
南滿洲鐵道總裁　●後藤新平君
元帝國大學教授　●エ、ベルツ君
醫學士　●中野榮君
文部書記官　●寺田勇吉君
醫學士　●寺田哲作君
醫學士　●寺田織尾君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寛君
ドクトル　●新井古芳君
ドクトル　●富士川游君
高崎醫會長　土谷全次君
産科婦人科　●水原漸君
ドクトル　●久保田誠麿君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　●遠山決君
醫學博士　●朝倉文三君
ドクトル　●朝山花六君
醫學博士　吾妻勝剛君
醫學博士　●佐藤三吉君
醫學士　●櫻井郁二郎君
醫學士　●佐藤恒久君
ドクトル　●佐伯理一郎君
醫學博士　●榊順次郎君
醫學博士　●榊保三郎君
醫學士　●佐藤得齋君
醫學博士　●櫻井恒次郎君
醫學博士　●桐淵鋭次君
醫學士　●北村椅造君
醫學博士　●北島多一君
ドクトル　●北川乙二郎君
醫學博士　●木下正中君
醫學士　●北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮木仲君
理學博士　●箕作佳吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學博士　●三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學士　●島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●日高昂君
ドクトル　●須田卓爾君
醫學士　●遊川德君
醫學博士　●木村德衛君
醫學博士　森林太郎君
醫學士　●笹川三男三君
醫學士　●波多野樗君
醫學博士　●吳秀三君
ミス　●リッデル
ミス　●ヒユース
ミセス　●コーツ
ドクトル　●菊池徹一君
醫學士　●橋本左武郎君
醫學士　●鳥居春祥君
ドクトル　●土田卯三郎君
ドクトル　●佐藤延雄君
ドクトル　●西山信光君



日本に於て初て種痘を其御妹君に接種せられし

鍋島閑叟侯

婦人衛生雜誌第貳百七號（明治四十年二月十五日發行）

名家演壇

疾病の話

ドクトル　富士川游君
但速記所員速記

前回に續きて疾病の御話を致します、前回では病氣を治すと云ふことに付ての大體の御話をして置きましたが、病氣を治すと云ふことと動物ても、することてありますけれどもそれは本能てやるので、病氣の次第を考へてさうして知惠でこれを治すのは人間の力である、其事の極く大體の所をこれから御話して見たいと思ふ、そんならばどうして病氣を治すかと云ふと、病氣は、是迄數回引續きて御話をした通りに、身體の機能の一つであります、身體の中に何か障碍のあるために之を矯正しやうとして起る所の反應作用でありますそれで人間の身軀が普通にさへ成つて居れば從て病氣は自から治る、現に動物の病氣はさういふ工合で治るので、それは確に證據を擧げて申すことが出來るのであります。

夫れならば人間がどう考へて病氣を治すかと云ふと、我々の考へは斯うである、病氣と云ふものは自然に治る、病氣と云ふものは人間の機能が通常ならば自然に治る、けれども其治るにも度合がある、限界がある、さうしてこれには時間が懸る場合がある、夫れて時間が懸るのを短くして、さうして治る境を向ふへ越してさうして治すには是非人工の治療といふものゝ必要がある、例へば斯ふ云ふ場合があります、人間の身體の中に血液と云ふものがある、其血液は御承知の通り、身體の養をするものであります、食物或は呼吸からして養分を取つて身體の方々へ振撒く役をして居るものでありますが、此血液尋常量の半分以下になれば其人は死ぬる、それで病氣は自

然に治ると云ふことは旣に言ひましたけれども、それには境がある、例へば人間の身體から血が出る、其血が身體の半分以下になれば自然に治らないのである。又人の身體には肺臟と云ふものがあつて夫れで吾々は呼吸をして居るが、萬一夫れが肺結核とか、肺炎とか、種々肺病と云ふ病氣になつて、此肺臟の半分、或は三分の二を侵さるゝときは治らぬ、しかし少しの範圍ならば差支なく、左の方の肺臟が惡ければ右の方て補ふ、血液ても一方の血液が少なくなつた場合は一方の方て補ひを付けるけれども、此血液の分量が當り前の半分になればモウ補は付かぬ、夫れからして例へ、小兒の時に養が惡いとそれが傴僂病と云ふ病氣になりまして、成人しても其補ひが付かないといふやうな事もある。

夫れから心臟とか或は兩方の肺、或は腦髓の中に延髓と云ふ所がありますが、其機能が場合に依つて急に侵されますと補が付かず、自然に病氣の治る時間が來ない、それて、到底自然に病氣が治ると云ふことを待つて居られないのであります、其境と其時間を早くして、即ち永い間に自然に治るものを短かく治すといふものが治療の本旨であります。

其治療と申します所のものに付ては方法はありますが、併し大體の主意はそれに過ぎぬのであります。それならばドウして其治療をするかと云ふと、今日吾々の醫學の智識てやりますのに、種々遣り方がある

誰れが考へて見ても病を治するは第一に病氣の原になるものを取除ければ好いと云ふ考が出る、夫れを醫者の方ては原因療法と言つて居る、病氣の原になるものを取れば宜い、其病氣の原は、前回に委しく申しました通り、理學的のものもあるし、化學的のものもあるし、外から來る黴菌の如きものもあります、それは今日醫學の研究て大抵判つて居るが、其原因を取り除けてやれば宜い、是れは誰にても考の付くことてある、しかし原因は判然として居つてもドウして其の原因を除くべきかわからぬ場合があ

る

其次には根治療法と云ふのがある、此根治療法と云ふのは其病氣を取除けるのである、或る原因に因りて一つの病氣が出來る、其病氣が出來た爲めに、種々の障りが身體に出來て來る、其原の病氣を治すのを根治療法と云ふ、例へば耳の中に膿が出來る、其病氣の爲めに耳が鳴つたり、熱が出たり、腦病が起つたり、種々の病氣が起る、其時に此耳の病を根本から療治をすることを根治療法と云ふ。原因療法と云ふのは病の原因になるものを取り除ける、根治療法と云ふものは既に或る原因の爲めに病氣が出來て居つて、其の病氣の爲めに種々な病氣が起つて來る場合に、其根本の病氣を取り除けるのを根治療法と云ふのである。

其次は頓挫療法、是れは病氣を自然に任せて置けば、一定の經過を經て長く行くべきものを途中でチヨツト其原因を去るやうにする方法である。何の病氣でも自然に任して置けば、ズット長く渉るべきものを、急に其病氣の原因を取つて除けて、途中で治す、是れを頓挫療法と云ふのである。肺炎などに一週間とか或は二週間を經る間に、途中で頓挫するとがある、それを醫者が行りまするのを頓挫療法と申します。

夫れから原因療法も出來ず、根治療法も出來ず、頓挫療法も出來ず、仕方がないから他の方法を仕ますのを姑息療法と云ふ、唯姑息に運に任してやると云ふ療法の仕方である。

それから是れと善く似て居りますけれども、全く違ふのが傍觀療法。是れは傍觀と云ふのは傍で見て居ると云ふのでありますから、一寸姑息手段のやうであるが、決してさうでない、傍觀と云ふのは、若し病氣が起つても、チヤンと一定の順序で何ふ云ふ風になると云ふことを、是迄の經驗で能く知つて居ります所の病氣なれば、其病氣の一定の經過を經るまで傍で見て居る、傍で注意して居る、傍觀と言つても寧ろ監督である、此の療法を行つて居ります

のは。例へば膓窒扶斯である、膓窒扶斯の如き病氣は一定の經過を取てチャンと極り宜く行くのでありますから、此傍觀療法といふ療法の仕方を、今日では何の醫者でもして居るので御座います。

其次には對證療法、此對證療法は病氣の原因、或は經過、さういふことには關係なしに、病人が苦しいと言ふ、其苦しいことを取つてやる。例へば痛むと云へば、其痛みを取る、寢られないと云へば、それを寢られるやうにする、或は腹具合が惡くなれば、其腹具合の惡いのを治すと云ふ風に、病氣の兆候と云ふことを申しますが、其病氣の兆になつて患者の苦しい事がある、此の苦しいのを一々取つてやる療治の仕方でありまして、病人に對しては極めて恩惠的のものでありまして、其療治の仕方が旨く行きますれば、誠に病人に取つては幸福なことである。病人が一番苦しいのは兆候であります、或は疼痛で堪えられぬとか、寢られないとかいふ事は、何う云ふ風な病氣であらうが、其苦痛さへ去れば病人其者は宜しいのである、此對證療法と云ふものは、法式的に旨く行きますれば、病人に對して非常に恩惠のものであつて。醫者の治療の中でも是れが一番なので御座います。

前申しました通り、所謂自然の機能と云ふものがありまして、疾病と云ふものは、自ら生ずる所の能力がある、一定の經過を經れば治ると云ふことがある、が今話した所の療治の方法に種々の藥を用ゐ、いろ〳〵の機械を用ゐ、いろ〳〵の方法を施すので此等の方法治療をやりまする人を醫者と云ふのでありますが、治療をすることは、もとより醫者に限らない、國家の認可を受けて治療をすると云ふことは醫者に限るのでありますが治療の範圍は甚だ廣い、デ今日一定の試驗があつて何所の學校でも教育をして醫者を拵へて居りますが、しかし其以外にも學校に關係のないもので療治をするものが隨分澤山あるのであります。

ソコデ疾病の治療をお話ししまするに付て、皆さ

んに對して特にお話をして置きたいと思ふのは、是まで數回續いてお話をした所は、學校の教育、今日の醫學で治療をする仕方でありますけれども、さうてない療治の仕方は幾つもある。日本ではありませぬけれども、西洋で頗る盛に行はれて居りますのは、ホメオパート、是れが隨分澤山ある、其治療の仕方は同じ物を以て同じ物を治すと云ふ方法であつて、熱がある病氣なれば熱を起す藥を用ゆれば治る、吐く病氣なれば吐く藥を用ゆれば善い、大體さう云ふ風の療治の仕方である、獨逸、英吉利、亞米利加邊りは此の流の人が非常に多い。

夫れから其次には水療法、水を用ひて何の病氣も治す、この流派が非常に澤山ある。夫れから近頃になつて日本にも這入つて來ましたけれどもメスメルズム。是れはメスメルと云ふ人が始めた催眠術といふもので治すと云ふ療法である。是れは元と佛蘭西邊りで盛に行はれたのである、近頃になつて我が日本の方までもやつて來た。

夫れから磁石療法と云ふのがある。是れは磁石を用ゐて治す、是れもどの病氣でも治す、夫れから「シヤウンヂチスムス」。是れは尖に藥の付いた鍼を身體へ突き込んでやる方法で、日本の鍼治のやり方である只彼の鍼の尖に藥が付いて居る、さうして身體をツッツイて何んな病氣でも治す、是れが獨逸では一部に行はれる。

夫れから今度は藥草療法と云ふのがある、日本で言へば漢方のやり方でありますが、彼れとは大變に違ふので、一種の草を以てさうしてどの病氣でも治すといふのである。

それに能く似て居りますのが植物食療法と云ふのであつて、それで病氣を治す。是れは獨逸で今頻りに行はれて居る。

夫れからオステオパシーと云ふのがある、是れは亞米利加で今から凡そ二十年程前にシチルト云ふ、極く教育のない人がやつたのでありますが、文明を以て自ら許す亞米利加でも此オステオパシーといふ奇

妙の療法は止まない、今日オステオパシーの大學が起つて、オステオパシーのやり方を教へて居る、此のオステオパシーのオスと云ふのは骨で、パシーと云ふのは病氣である、骨の具合が惡くなる爲めにいろ〳〵の病氣を起す、それで一種の按摩に類した療法で以て或は擦り或は運動をする、其療法で病氣を總て治すといふので、亞米利加から我邦に來た人があつて、さうしてこの仕方をやつて居るのであります。

夫れからして人の氣合を以て病氣を治すと云ふやうな事もある、矢張東京でもやつて居るものがある。

夫れからして獨逸に行くと、さう云ふやうな人で以て大きな團體が出來てやつて居る、其團體の人數が澤山にある、今お話した水療法とか、ホメオパートとか、オステオパシーとか、メスメルズムとか、シヤウンヂチスムスとか、磁石療法とか、藥草療法とか、植物食療法とか云ふ療法をやつて居るものが、幾萬もある、それがどう云ふ所の人かと云ふと、學校の敎生、或は一定の職業のない人、夫れから甚しいのは下女であります、夫れから宿屋の番頭、理髮床の爺と云ふやうなものがやつて居るのであつて、夫れが非常に多い、て斯う云ふ風な水療法とか、オメオパートとか、メスメルズムトとか、オステオパシーとか云ふ療治の仕方が種々あつて、夫れをやる人は獨逸、佛蘭西、英吉利、日本でも然るべき地位のある人、然るべき普通敎育のある人が矢張り是をやつて居るので、是れは妙な現象であります、何れの國でも、獨り日本のみではない獨逸でも非醫者の所へ馬車で其手術を請ひに行く人が澤山ある、さうして一定の學問をした人よりも病人が多い、日本でもメスメルズムが大層流行る、さうすると然るべき地位のある人とか、然るべき敎育のある人が夫れへ往つて療法を賴む、さうして一定の療治の仕方をしたが治らない、治らない爲めに催眠術をやつたら治つた、それだから是れは善い、斯う云ふのであります。西洋でも矢張さうである。

茲て私が皆さんに一言お注意をして置きたいと思ふのは、此れまでお話をした其要點を摘むと病氣と云ふものは、此人等の言ふ如くさう單純なものではないのであります、今日吾々が人間の身體と云ふものを根底にして、此病氣の治療と云ふことを正式に遣るには正當の豫備の學問か入るのである、夫の非醫者の療治の仕方も偶然に、當る場合もありませうが、是れは本當の療法でないと云ふことは確に言へるのであらうと思ひます、大分長いお話をして、甚だお聽き惡かつたらうと思ひますが、病氣のお話は是で止めて置きます。





婦人の神經衛生（二）

醫學士　田村化三郎君

神經衛生の目的

神經の衛生に就て精しく御話する前に順序として先づ何の爲めに神經衛生を守らねばならぬか其目的に付て一言述べて置かねばならぬ即ち

第一、神經病に罹らぬ爲め
第二、神經質及び神經病を癒す爲め
第三、神經質を子孫に遺傳させぬ爲め
第四、神經質の兒童を善く教育する爲め
第五、家族の神經質神經病を癒す爲め

である、其外神經質の爲め瘦せた人の肥ゆる爲めにもなるさて神經質と神經病とはどんなものかは小冊子「神經の衛生」に精しく記載してあるから之を讀

んだ御方には善く御分りの筈であるが尚茲に多少の重複を厭はず婦人の神經質と婦人に多ひ神經病とに付て精しく御話する積りであります。

婦人の神經質

▲萬事氣にかゝる　凡べて婦人は感情が鋭敏で物事に感じ易ひが是は婦人の本性で別に神經質と云ふ譯ではない神經質の特徴は萬事つまらぬ事が氣に掛り自分で止めやふと思ふても制し切れず氣になつて氣になつて仕方がないのである例へば第一、不潔が氣にかゝる障子の棧や戸棚の隅を指でなでゝ見る塵が指に附くさあ氣になつてこんな掃除てはいかぬとて小言が出る其外他人のした洗濯が氣に入らず自分でやり直したりすべて少しの不潔を大層氣に掛け過ぎるといふ風である第二、物の不揃を氣にする机の上の書物や戸棚の道具類や何でもキチンと小口が揃ふて居らねば氣にかゝる障子襖が少し隙いて居ても氣にかゝる、物の置き方が曲つて居ても氣にかゝる、尤も着物の八ツ口の不揃を氣にするは身嗜から來る婦人の本性である又方角を氣にしたり縁喜とか御弊を擔ぐとかいふのは迷信から來るので神經質ではありませぬ。

▲心迷ふて決斷つかぬ　又神經質の婦人はつまらない小さい事に心迷ふて容易には決斷がつかぬ例へば一寸用達に出るにも今日にしやふか明日にしやふか髮を撫てつけやふかいつそ結ひ直さふか、遲くなるから止めやふか、着物はどれにしやふか帶はどれにしやふか下駄はどれか、足袋は此儘でよいか蝙蝠は持たふか、よそふか、手袋はどふか紙入れはどふしやふか持つて出て落しはせぬか、宅に置いて盜まれはせぬか、歩いて行かふか車にしやふか電車にしやふか雨が降り出しはせぬか雨具を用意しやふか土産物は菓子折にしやふか玉子箱にしやふか玩具がよいかしら鰹節の方が爲めになつて善いかしら呉服物を張り込むとしやふか今頃行つて御宅かしら若しも留守ならどふしやふか、いつそ明日のことにしやふかしらと云ふよふな日常些細のことに迷ふて決定がつ

かねのが特色であります

▲萬事惡い方ばかり見る　其外總べて物事のわるい方ばかり見て惡い方は目に付かねのが特色である例へば小さい家に住まへば狹くて不自由だと云ふ大きな家に移れば廣くて掃除が大變だと云ふ生活の程度低い時は忙がしひとて不幸ばかり程度高くなれば下女が思ふ樣に働かぬとて又不平を云ふ餘所の亭主は優しく見へて內の亭主ばかり薄情に見へ餘所の子供は柔順で內の子供は少しも云ふことを聞かぬいつまて働いても樂にはならず年中亭主と子供の爲めに與に繩を通して引き摺られて行くやふな感じがする、どふして自分はこんな所に嫁入りしたろふ、あの時結婚せずに今暫く待つて居たらも少し善い人に嫁することが出來たらふ一體我は何の爲めに結婚したのであるか自分で自分が分らぬ自分程馬鹿はない不幸者はないと果ては浮世を悲觀するやうになるのである

▲取越苦勞をする　神經質の人は凡べて昔から云ふ苦勞性で來年のことを今年から考へて取越苦勞をする、大地震がありはせぬか、火事はどふか、ペストは來はせぬか虎列刺はどふか產が重くはないか產後死にはせぬか結核がうつりはせぬか脚氣が衝心しはせぬか娘の緣が遠い時はどふしやふか片輪が生れはせぬか咳が出るが肺病ではないか熱がある窒扶斯か知らん髮の毛が拔けるが梅毒ではないか知らん亭主の歸宅が遲いが何か他に出來たのではないか夫の愛が衰へはせぬかなどゝ求めて心配苦勞をすると云ふ風であります（つゞく）



衛生雜話

呼吸の話

醫學士　渡邊房吉

（一）呼吸作用の必要

「オギヤー」と勇ましい鬨の聲を上げて此世の中へ生れ出た嬰兒が、第一に爲すことは空氣を吸込むと云ふ事と、その次に之を呼出すと云ふこととであります。此空氣の出入を呼吸作用と云ひ平均一分間に二十回位行はれて居るもので、これを一時間にすれば一千二百回、一日にすれば三萬回、一年に積れば千萬回以上になります。人生を假に五十年と見積りますれば其呼吸の數は實に夥いもので、一日三度の食事が一週間で二十一回、一年で千百回、五十年で僅々五萬余回であるのとは決して同日の比でありません。

無論食事と云ふことが極めて大事なもので、身體の榮養も之によりて維持され、心身の作業力もつまりは食物中に含まれてゐる潜勢力が體内に入りて顯勢力に變るからであると云ふことも事新しく云ふ迄もないことですが、私共は五日や六日は何にも飲食しないでも活てゐることが出來るもので、昔シキリストと云ふ方は四十日四十夜の間飲まず食はずで精神の修養を積んだと云ふことです。然しながら數分間と呼吸を止めてゐることは到底人間には出來ないことで、淵に躍て居る魚でさへ水にとけてゐる空氣を呼吸するものです。故に食物は必要ですが呼吸は更に必要であると云はねばなりません。何故ですか、呼吸作用は生活機能に特別なる關係を持つて居るのですか。

（二）呼吸作用の學理

之を知らうと思ふには先づ身體の方で食物が組織となり、熱となり、力となる具合を學ばねばなりま

せん。これは化學と云ふ作用に由るもので丁度鑪の中で新炭の焼ゆるのに比較すべきものであります。

燃燒と云ふことは薪の中の元素が酸化して新なる分子を造ると云ふことで、例令ば石炭は炭素と窒素との二つの元素から成立して居りますが、此の二元素とも空氣中の酸素と一緒になつて新なる化合物を造りて煙突の中から脱けて出ます、其化合の際に熱を出すのであります、故に能く燃やそうとするには酸素を含んでゐる空氣を充分に供給せねばなりません。

人間の體は活きてゐる鑪の樣なもので、石炭の代りに食物を燃料とするものです、けれども石炭ばかりでは燃へぬ如く、食物計りで空氣がなければ食物と化合する酸素がないから決して燃へる道理がありません。これが呼吸作用の必要な理由です。所で此燃燒作用は身體到る所に行はれて、云はば身體無數の細胞は各々一つ〳〵の鑪の役目をして盛に熱を造り出し、兼ねて新しい組織を造つて古いのと取り代へる務をして居ります。

然し何うして身體各部の細胞にまでも酸素が入ることの出來るでせうかとは一應御尤もの不審ではありますが。これも呼吸に由るものであります。一體心臟と云ふ本家から鮮紅になつて諸國巡禮と飛び出した血はお腹のうちは云ふも更なり。頭の腦天から手足の爪先まで殘る隅なく駈り駈つてあるくので、之の長道中の間に諸所方々の細胞から鑪の燃屑の運搬を頼まれること夥しく、此重荷を擔つて肺へまで戻つて來た時の血の色と云へば何處となく黒づんで最早昔の色はありませんが、肺へ一切此重荷を托んで呼出して貰い、自分は其代りに澤山の　酸素を受け取り再び元の鮮紅色に復し一旦本家に立ち戻りて再び廻國に出掛け、行く先々へ酸素を遣りて燃燒を助け、その代りに燒屑を托されて歸るのであります。此樣に血液が肺と身體各部との間をたへず往復循環して酸素と燃屑との交換を取り次ぎ兼ねて食物から來る營養物の配達をして居ると云ふ事が私

共の生活力を造ることとて、取りも直さず、我々の生活を司る所以であります。

(三)深呼吸の必要

呼吸作用は此樣な重大な關係を生活機能に對して持つて居りますから、我々生活力の强弱大小は呼吸の强弱大小に比例すると云ふても差支へありますまい。ドクトルホルブルーク氏は『小兒の活潑と不活潑なるとは肺の强さに密接な關係を持つて居るもので、大人の氣質が進取的なると保守的なるとも又自づと呼吸の深さ及び靜かさに影響するものである。肺が强くて呼吸作用が活潑であれば元氣と勢力とが溢れ、之が反對であれば臆病と引込み思案とになる、更に進んで肺の働がなくなれば生命といふものはなくなる。故に快活勇壯にして世に大業をなさんには呼吸を肺一杯にしなければならぬ』といふて居ります。或一名醫も云ひました『呼吸は實際的の生活機能でこれが止るが最後、他の生活に須要な機關の作用も共に止まらざるを得ない』と。

扨て私は多くの御婦人方が眞に全く呼吸せらるゝか否かを疑ふものであります。左樣、呼吸ならぬことはありますまいが、之れは或深さ迄の呼吸ではありますまいか。ホンノ少許の空氣が力無げに肺の一部にのみ流れ込んで其大部分は空氣の恵みに與からぬのではありますまいか、果して空氣が勢ひ良く肺の眞底まで侵入して空氣本來の作用を盡しますか、廣い帶や『コルセット』を以て腹部から胸部へかけて緊く縮める樣なことはなさるまいが、すべての生物中最も高尚なものは最も大なる呼吸力を有するものでありまして、冷血動物や運動の緩慢なる動物は感覺も鈍く呼吸も弱いものであります。然るに人類の肺は其體の大さに比し頗る大きなものでありますから强く深く活潑に呼吸して生命力量共にすぐれたものとならねばなりませず、又そうなるべき筈て彼の活潑なる運動をすると云ふのも畢竟は心臟及び肺を刺戟して肺へ流れ込む血流が盛になり、從つて供給せらるべき酸素の量が多くなる所以でありま

す

私共が毎日必ず一定時間だけは運動をなし、努めて深呼吸を怠らぬ樣にしたならば其結果や賦に大なる譯であります、昔ギリシヤ「ローマ」の時代ですら「深呼吸は血液を潔め體力を增進せしむるものだ」と云ひて大に奬勵いたしたものですが、近來學問の開け行くにつれ益々そうであることが判然し加之訥言や筋肉の慢性痙攣症までが深呼吸で治されると云ふ樣になりました。

ライプチッヒのニーマイエル博士は「空氣を選びて良き清潔な塵の無いのを吸へ、室の中は豈攸北新鮮な空氣で滿たして置け」と云ひ、ドクトルビッキングは「呼吸を深くする體操運動は肺の病氣には何れも良いが取り分け肺結核には効驗がある」と申しました。チコリナ夫人は呼吸體操を敎授して風を引き易い體質を治し肺病や心臟病を治し、小兒の時からあつた神經性の喘息をも治したことがあると云ひます。曾てキッチエン博士は「身體の各部さへ全く健全であれば結核菌も之に乘ずべき所なく、よしや多少の結核菌が體内に入りても繁殖する餘地がない」と云ひ、又「たとへ肺結核の初期位にはなつたからとて一般の營養に注意し、新鮮なる空氣と深き强き呼吸とを營む樣にすれば治るものである」と申しましたが實際其通りで、かりにも病氣との戰爭とあれば、何處か弱みのある方が敗軍するのは當然で、平素衞生に心掛けて健康なる身でさへあれば雲霞の如く寄て來る病氣の軍勢も平然たるものであります。

昔しアーデン府で疫病猖獗を極め、目もあてられぬ慘狀を呈し、其餘毒はひいて數世紀の後までも人心を恐怖せしめた時にソクラテスは平素常時の衞生を守りて毫も恐るゝ所がなかつた相です。何故に現今の方々は肺病を恐れ風邪を恐れ只管消極的の方面にばかり走りて積極的に之に打ち克ち若しくは之に侵されない方針を講じないでせうか。

肺病患者へは近寄らない、肺病患者とは食卓を共にしないといふ樣な消極的の豫防法も勿論必要

てはありますが、更に進んで活潑なる運動と深き强き呼吸とによつて肺力を强めるといふ積極的の豫防法を勵まねばなりませぬ。「婦人は胸で息をし、男子は腹で息をする」とは通常云ひふれた言葉で實際もそうでありますが、生理學上そんな理屈はないわけて、腹と胸との兩腔を隔てゝゐる横隔膜が下へ下り、肺が廣がつて呼吸すべき筈であります。故に胸てするのも惡い腹でするのもよくない、横隔膜で呼吸すべきであります。今迄浮上つて居た横隔膜が深呼吸の時に急に緊張して平たくなり、かくて胸廓を廣げて空氣の侵入を容易にし再び收縮して元の通りになるのは丁度蝙蝠傘を開閉する樣なものであります、此樣な深呼吸を毎日數分間づゝでも實行する時は細い平たい惡い胸廓は太い廣い良い胸廓となり、細い蚊の泣く樣な口の中の聲は大きい人間らしい胸からの聲となり、雨風毎に肺病にはかゝりはせずや、風を引きはせずやと氣遣つた心配も去つて幸福の母といふ健康をたのしむことが出來る樣になるのてあります。

（四）深呼吸の方法

深呼吸をするには直立するか或は平臥して手を握り足を固定し全身に力を入れ、口を閉ぢて靜かに鼻から空氣を吸ひ込み、充分胸の廣がるまでに達せしめ次に徐々として再び之を吐き出すのであります。深呼吸をなす部屋の空氣の流通がよくなければならぬのは無論ですが、成るべくは戸外でするのが望ましい。これを數度反覆せば頭痛等も去り、頭腦は自と明快になり、賢き判斷も出、能き思案も湧き、意志の力も强くなり、一體に樂しく快くなる樣になります。

（五）呼吸の妨礙

深呼吸は前に述べた通り全身の健康に必要でありますがこれを實行するには又深呼吸の妨礙になるものを知り之を避けなければなりません。

第一、深呼吸をするには身體の姿勢を正しくすることが大事であります。少しく生理書や解剖書を讀

んで體内の機關め排置の有樣など御存じのお方は此道理をも能く御承知の筈て、座つて體をかゞめて居れば身體の或部分が壓迫されて充分な深呼吸を妨げるものであります。裁縫や讀み書きや琴三昧などの御稽古で座てる時は肩は一方にこけ、脊柱は左右或は前後に曲り胸廓は縮められて呼吸をさせる肉も働きが鈍くなり、從つて横隔膜が平たくなつて胸廓を廣くする道理なく、肺が思ふ存分に擴がつて其眞底までも空氣の入つて行くといふ筈もありません。全身を循環して其不潔物のために黑づんだ血も肺へ來て充分に潔められて鮮紅色の血となることが出來ず、生活作用のために發生した毒も漸次腦や組織の中に堆積つて擧作進退一般に不活潑になる樣になります。

座業をする場合には時々立つて戸外に出で、五六回も續けて深呼吸をなし、再び仕事に取りかゝる樣にするのが宜しい。斯うすれば或内臟部の鬱血もよくなり、腦に毒素の堆積する恐もなく、仕事の進捗ること夥しく、間違、失敗などは概して少くなります。座業を終つた後は氣を付けて姿勢を正くし、務めて自然の位置を保ちて、聊も無理をしない樣にするがよい。

呼吸の妨げになる惡い姿勢は座る時ばかりではなく立つ時も亦あるのです。脊柱が灣曲し、兩肩が斜で、足が伸縮みをし、肩と臀とが同じ垂直線上にない樣な正くない起立の姿勢をとる時は、充分に肺を廣げることが出來ず、活潑なる元氣を奮起することも出來ません。元來我々の元氣、快樂、勢力などといふものはすべて呼吸力の大小に比例するものでありまして或人は「考へ深い學者、雄辯な演説家、微妙なる音樂師となるには是非共深い強い大な呼吸をせねばならぬ」と申しました。

第二、胸を堅く締めるのは呼吸には禁物です、洋裝なればコルセット、和服なれば帶、何れも呼吸の當の敵て、呼吸を妨げることは云ふまでもありません、帶がズル／＼してゐるのはいかにもダラシの無

い樣で見惡くいものではありますが、それかと云ふて體のしまりをつけるつもりで無暗に堅くしめるのも宜しくはありません、強く締めるのは氣持のよいもので誰も陷り易い缺點でありますが、假にもこれが不健康でありとすればつとめて避ける樣にするのが我々の本分であらうと思ひます（完）

乳腺の話

醫學士　渡邊房吉

（一）乳腺の解剖

身體の表面には皮脂を分泌する皮脂腺と云ふものがありますが、乳腺は此皮脂腺の變形したもので、胎兒がまだ母の胎内に居る時分に其上皮が突起して太くなり、次でだん／＼紡錘狀に大きくなりて出來るのであります。其作用は種族繼續に極めて深き關係を有するもので、乳汁と云ふ特有な分泌液を出して、嬰兒を養ひますから通常之を乳腺と云ひますが又胸部にあると云ふとこから胸腺とも申します。

男女共その出來始めは同樣で、その發育の具合も大差ありませんが、いよ／＼成人の境に入らうと云ふ頃になると急に其歩調がかはつて、男子では只扁平で小さな隆起となつて居るに引代へ、婦人では著しく發達して大きくなり、殆ど茶碗をかぶせた樣に半球狀となつて胸骨の兩側に下垂り、通常第三番目と七番目との肋骨の間に座を占める樣になります。

乳腺の尖端には嬰兒のくわへる乳嘴があつて其處に十五本乃至二十本の輸乳管が開いてゐます。此輸乳管を辿てだん／＼深く入れば木の枝の樣に分れ、遂には乳を分泌する本家本元なる腺部に達するのであります。乳嘴の周圍は男子では二乃至三「センチメートル」位、婦人では三乃至五「センチメートル」位の直徑を有する部分が他の部分より赤色づいて、微小な波の樣な皺を湛へて居ります。これを乳輪と云ひ姙娠の時には更に一層色素を增して濃い色となります。

一般に乳腺と生殖器とは一定の關係を有するもので或書物では全く之を生殖器の中に書き入れてあり

ます。故に生殖器が發達して生殖慾の發芽しやうと云ふ頃から乳腺も益々發達して大きくなり、妊娠の間には更に一層歩を進めて大きくなります。

人類では通常左右に一つづゝあるものですが、稀に普通の乳房の傍にいくつもの副乳房があつて恰も動物に似寄つて居ることがあります。ウヰリアムの云ふところに據ると雙兒と云ふものは凡ての御産の一「プロセント」即ち百回のうち一回位あるもので、副乳房を持てる婦人百人のうち四人までは雙子を産むと云ふ割合だそうてす。此樣な副乳房から他日惡性い腫物の出來ることがありますから大に氣を付けねばなりません。

男子でも十五六歳から二十二三歳頃になると乳腺の大きくなつて、多少の乳を分泌するものがありますが、ヴイルロートと云ふ有名な外科醫の診察た男の患者は長サ四十三「センチメートル」重サも亦之に準じた大きな乳腺を持つて居つた相てす。又フンボルトの話しに據ると南亞米利加で其細君の死んだあと五ケ月間は自分の乳て其子を育てた三十二歳の男子があつた相てす。

（二）乳腺の怪我

怪我と云つても切創、刺傷、銃傷等はさまて多いものてありませんが、挫傷はあまり少くないものて抱いて居る子が活潑なれば活潑なるだけ、膝の上て跳ね躍つて腕をのばし頭を振り立たりしますから、時として乳房に打ちつけ激しき痛みを喚起し、多少皮膚の下て出血して色附いて來ることがあります。又物の隅や机の角などへ打ち付け急に膨れ上つて多少の熱を持ち、其痛みに堪へやらぬことがあります。大抵は冷やしたり濕布繃帶を施したりすれば心配なく治るものですが、他日惡性の腫物がこゝから生ずることがあります。

（三）乳腺の病氣

乳腺の病氣のうちて最も多く且つ最も必要なのは急性乳腺炎てあります。急性乳腺炎とは病氣を喚起す黴菌が乳房の周圍にある裂瘡や潰瘍や小兒の嚙ん

だ齒の跡等から乳腺の中へ浸入するがために出來る病氣て、乳腺がだん〳〵浸潤て硬くなり、漸次赤く膨れ上つて、其場所と全身とに熱を持ち時としては三十八九度より四十度以上に昇り、其都度惡寒がしたり身の毛の彌立ちたりして氣色甚た惡しく、食氣は進まず睡眠も安からず、加之耐へ難き痛みやあるもので、かよはい方は乳房を押へて泣き暮らし、見るからに同情に堪へやらぬことがあります。

此病氣は初生兒にもあり、生殖慾の萌しかけた十六七の處女にも來り、最早や月經の止つた四十六七歳の婦人にも見ることがありますが、最も屢々あつて且つ最も急性なのは產後の婦人て殊に初めて分娩をした婦人てあります。

乳腺の患部が悉皆膿むて外面に破れて仕舞へば熱も下り、痛みも輕く、腫强もとれ、赤みも減じて急にラクになりますが、自然に破れるのを俟つとつらさもつらく、危險も多く、全治るにも時日がかゝり、乳房の形も可笑しくなつて美術的てなくなりますから、早く外科醫に見て貰ひ相當の治療を施す方がよい。

醫者の來るまでの手前療治としては第一に乳腺を繃帶て吊り上げ血の下るのを防ぎて血液の循環を助けるのが急務てあります。次に三「プロセント」の硼酸水て濕布繃帶をすれば一方には疼痛を和げる効を奏し、他方には病氣を散らす方法ともなります。

小兒が乳房にすがつても痛がなければ構わず之を飲ましても差支へありませんが、迚もいたくて吸はせることが出來ないならば止むを得ず吸角て乳汁を吸ひ取るか、或は下劑を飲んで通利を良くしかくて乳腺の張るのを防ぐのが肝要てあります。何れにするも病氣は未發に防ぐのが何よりの大事て、夫れには平素乳房の周圍を淸潔にし、假りにも裂瘡や齒の跡などがあつたら速に之を治すのを心掛けねばなりません。

(四)乳癌

癌と云ふ腫物は胃癌にせよ、喉頭癌にせよ、子宮

癌にせよ、何時何處に出來るにしても誠に性質の惡い腫物として世俗でも恐怖り、醫者の方でもホトホト其征伐に困しむものでありますが、乳癌も亦その數に洩れず、乳房が膨れたとか腫物が出來たとか云ふて居る間にドン／＼と近所界隈に擴がつて、格別のことも無い樣だとすまし込んで三四ヶ月も經つと最早や手も付けられぬ始末に立ち到ることがあります。

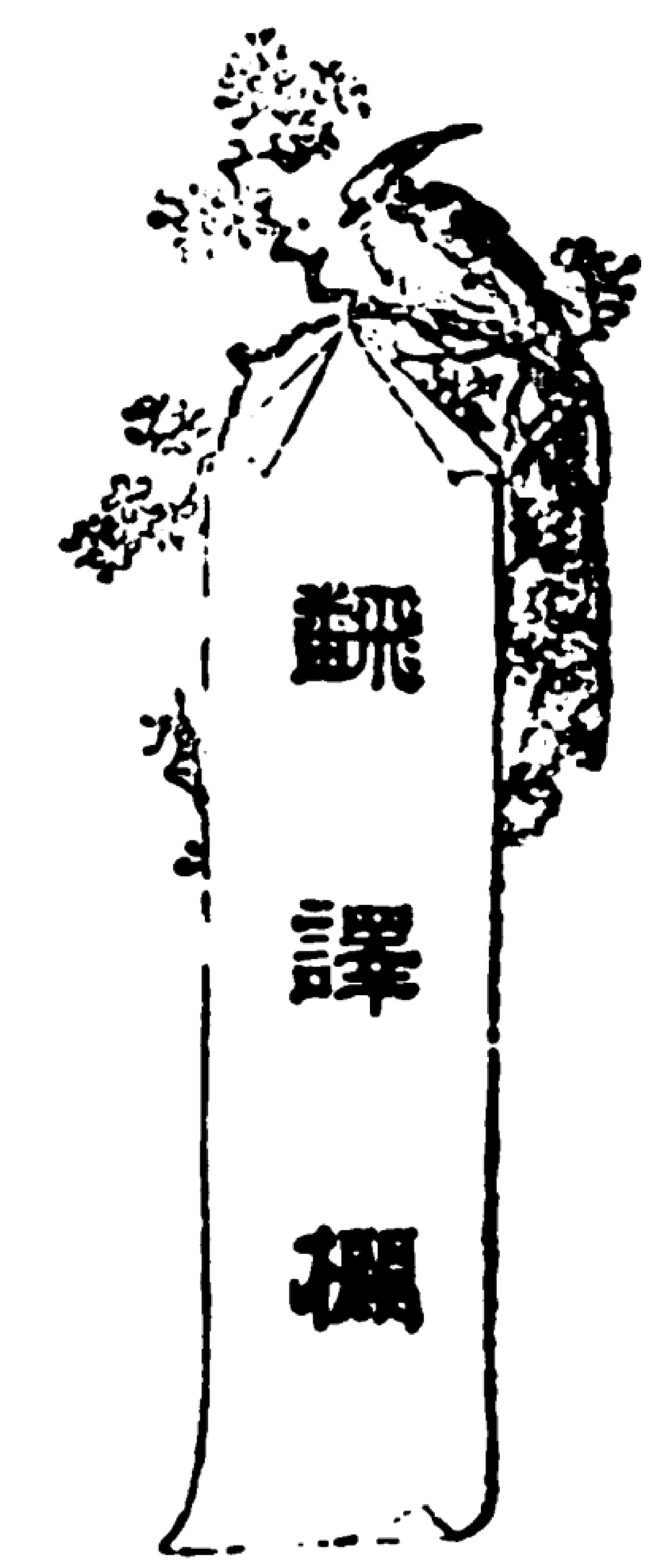
乳癌とは乳房に癌腫と云ふ腫物の出來る病氣で、初めの間は左程痛みもなく、只だん／＼に大きくなる計りであるので、今日とくらし明日と過ごして居る間に、見る／＼硬い浸潤が增へて、遂には皮膚や肉など〻堅く附着して動かない樣になり、又膚皮を破つて外面に破裂し宛然噴火山の火口の樣な狀態となつて鼻持ちもならぬ一種の惡臭を放ちます。此病氣はさながら貪慾親爺が溜めても溜めても飽足らない樣に、四周邊境を侵略して之を己れの領分內に組み込まうと云ふ慾望が甚しく、瞬時寸刻の間でも四隣を脅して居ります。殊に淋巴管と云ふ線路を利用して腋の下に手を伸ばそうとしてゐることは彼の露國が西比利亞鐵道を利用して南方に不凍港を得やうと心掛けて居るのとさながらであります。病氣の始めから八九ヶ月乃至十三四ヶ月も經つと愈々平素の目的を達して腋の下をも其領分とする樣になりますから、其處にある淋巴腺は何れも硬く膨れ上り壘々として相竝んで癌の性質を帶びてまいります。

是れでも癌の慾望はまだ滿たされませんから更に侵略の手を擴げて首の周圍の淋巴腺をも擒にし、尙ほ進んでは肋膜、肺、腦、脾臟、肝臟、骨、肉等をも切り從へる樣になります。病勢が斯程までに猖獗になつて來れば患者はこれに抵抗することが出來なくなり、だん／＼力は衰へ勢が弱くなり、氣息奄々たる狀態となります。加之癌腫の造り出す毒がたへず全身にまわりますから、身體の榮養は日に／＼惡くなるばかりて、遂には蒼ひとも付かず白いとも付かず、何處となく黑ずんだ下地へ更に黃な色を點じ

た様な顔色となり、癌の出來初めから一年半か二年半もたてば終に悲慘の最後を遂げる様な運命に立ち到ります。

以上申し述べた通り癌の性質の惡ひと云ふのは、(一)其生長が非常に迅速で四隣邊境を脅かして止まないこと。(二)淋巴腺や體内の機關一も飛び火をして之を侵すこと。(三)たへず毒を造り出して全身の榮養を害すること等で、尙ほ(四)病根を掘出して手術しても殆ど必ず再發すると云ふ性根の惡い曲者であります。さりとて手術をしなければ迚もなほる見込みがなく、浴る程ありとあらゆる妙藥を飲んでも、神佛に合掌祈願を凝らしたと云つても、外科醫の快刀に其病根を切つて貰はないうちは決して〳〵癒る道理はありません。よくあることで灸をすへたら善からう、針をたつたら小さくならう、呪でもしたら癒るだらうと迷ひが迷ひを生んで、トヽのつまりにヤッとのことで手術と云ふことに思ひ當つて、愈々血を流すと云ふことに決心する頃には、最早や手遲くれになつて醫者の方から「手術をしないがよからう」と云はれる様になります。

されば讀者諸姉のうちで若しも疑はしい腫物が乳房の部分に出來ることがありましたら、早速相當の修業を積むだ專門醫に診察てもらひ、醫者の意見で切る方が良いと云ふたら早速承諾せらるゝ様にお勸めいたします。然し之は腫物の旣に出來た時の話しで出來ないうちの豫防法は何うしたら宜しいでせうこれは癌の發生を助ける誘因若くは眞因を取り除くことで、一般に乳房の所を打つたり衝いたり壓迫したりする様なことは避けなければなりません。乳癌は自身の乳で其子を育つたものに多く、又屢々乳腺炎や乳腺の怪我などをした者に多いのが通例ですから、乳腺炎や乳腺の怪我は成る可く之を避くる様にし、避け難かつた時は一刻も早く之を癒す様にするのが肝要であります。乳癌が子供に吸はせた乳房に多いのは事實ですがサリとてこれだけは吸はせないと云ふ譯にはまゐりますすまい。（完）



遺傳素因ある者の神經病豫防法（前號の續）

プロフエッソルクラフト、エービング述

Cr M. K 譯

惡習慣に陷つて居るものは不活潑で臆病で人と交際する事を嫌ひ擧動に力なく神經衰弱の凡ての徴候を具へて居る此時には惡習慣の害毒を諄々と說き聞かせ醫者の力を藉りて禍を轉じて幸福とする事を勉めなくてはならぬさりながら此時は嚴格ばかりでも効を奏せず又醫治ばかりでも益が無い主に道德的の療法が必要であつて意志の力を強くし道德心を堅固にし有益なる講話をして心を惡事に向けない樣にし體の運動を盛にし體操水浴を行はしめ田舍の空氣を呼ひ刺戟性の食物を避けて身體を練り寢室を冷かにし布團も可成薄くし牀床を堅くし朝目がさめた時は床の中で愚圖々々しないで直に起き上る樣に習慣を付けるのであります。

神經病の素因あるものに對しては正しき敎育といふ事は極めて有力なものであるが遺憾ながら今日の敎育法は多くは間違つて居る、多數の神經病者が心のヒネクレてあるのは只だ單に神經病の素因が遺傳するものであるといふ事のみでなくして實に敎育法が間違つて居るといふ事に歸するのである小供の時には親の性格の缺點がよく小供の性格の上に影響するもので其神經性の爲めに種々の犯罪をなし懈怠となるものである敎育者たる責任を自覺し敎育の意味を明確に識つて居る親の至つて尠ないのは遺憾である。

神經質の親を以て居る小供の取扱上に於ける間違は嚴格に失するとか、しつけがあま過ぎるとか又は感情を銳くするとかいふ點に存する兩親が怒り易

くあつたり心がヒネクレて居つたり憂欝性であつたり或はヒステリ性であるならば其子供は親の膝下で敎育してはならぬ斯くの如き小供の寄宿舍生活は適當で無いから能く其子の個性に注意し特別の監督をするのが必要である。

即ちそういふ兒童は田舍に生活する敎育家の家庭に置くのが宜しいそうして兒童の氣象を强くするを勉め兒童の激情に對しては眞面目なる、時としては嚴格なる態度を執らなくてはならぬ且つ兒童の感情を鋭くしない樣にし、自制心を起す樣に敎育し從順にするのが肝要である。

妖怪談や小說抔は人の感情を刺戟し種々の空想を起さしむるものであるから、まして神經性の兒童に對しては嚴しく禁する必要がある。

兒童の心を活潑に導き暗い室や幽靈の話に恐れない樣に敎育しなくてはならぬ。

神經性の兒童に對しては其精神及身體上の幸福安寧を監視してやり彼等をして已れの娛樂を等閑視しない樣にしてやらなければならぬ神經性兒童の多數は異樣なる智力の發達を呈するものである即ち智力の發達の早過ぎる者もあり遲くれる者もある腦の過勞を避くるのが大切である。

斯の如き兒童は可成就學期を遲くし談話音樂の時間を多くしない樣にし郊外で充分の休養と許さなければならぬ。

神經病の素因ある者は今日の高等學校の勉學は適當しない學者的の仕事もよく無い彼等には普通の技術的の仕事が宜しい農業は一層宜しい、

素因のある者に勉學を强ゆるのは惡い事である心身を勞して危險を將來する恐れがある、神經性小兒の多數は賦性が偏して居るから一寸立派な賢き兒童の樣に見ゆる事もあるが眞の完全なる天才は神經性兒童に發見する事は出來ない。

各個人の能力に相應した職業を撰擇するといふ事は神經質の人に取りて極めて肝要な事柄であつて敎育の効果を完全ならしむる所以の道である職業の撰

擇を誤まつたが爲に取り返しの附かぬ狀態に陷つるものは決して尠くは無い職業の中て精神を刺戟し責任の重い坐業て精神を過勞するやうな職業は絕對的に惡い故之を避けなくてはならぬ。

素因の有る人て結婚した方が都合が宜かろうと思はれる時は經驗ある家庭醫士に相談して結婚するが宜しい結婚して差支無い身體なれば年若き男子の早期結婚は神經病の危險を減少する事が出來る獨逸ては女子の年齡は二十歲以上と定めてある即ち身體の完全に發達した後としてある。



雜報

●船暈の原理及救治法

此程歸朝せられたる久保福岡大學敎授の船暈に關する談を一部概說せんに船暈の從來胃の弱い人は胃され易いとしてありましたが之れは全くの誤解て氏の研究によれば耳より起る事を發見せられたりと故に生來の聾者や嬰兒の如きは船暈に感じない蓋し耳の發育不完全なるが爲めてある然らば其救治法は如何と云ふに目下の處ては其誘因を止めるより外はなく夫れに二つの方法かある一は神經の抵抗力を強くするので船に乘つたら甲板の上を一定の方向に運動して其習慣を付け或は絕へずブランコの稽古をして置くがよい尙一ッは少量の麻醉劑を用ゐるか左もなくば酒をのんで熟睡するので之れは神經を鈍らすのて斯ふ云ふ場合には麻醉藥や酒がさめると船暈を新たに起すもの故又再び用ゐねばならぬのてある目下歐洲の大醫も船暈病は研究中なるも耳と至大の關係あることは動かざる說なりと云ふ尙詳しくは次號に再錄することあるべし

▲喘息の新療法　ドクトル松井滋雄の嘗て大學撰科を出て臺灣より米國に渡り喘息病を研究せられ遂に良成蹟を得三百名の患者の内二百五六十名を全治若

しくは平治せしと云ふ氏は病理の根本は多くの慢性病や不治の病氣は何れも其病毒を血液中に有して居ると云ふのが持論として某氏の實驗談にも血液に病氣のない人若くは遺傳病のない人は風邪に罹る事が多く之に反對な人は風邪に罹らぬとの說は氏の持論を證明するに近き說なりと而して又其藥が偶然糖尿病に効驗ありと云ふ若し氏の說の如くなりとせば喘息患者の福音とも云ふべきも果して然るや否や

▲感冒の注意　本冬は感冒を誘因するに適したる氣候なるよしにて至る處感冒の聲を聞かざるはなし感冒は多く肺炎、肋膜炎、併發病を有するものなれ常に寒氣に打ち勝つ樣身體保護に注意せさるべからず若し罹病したならば賣藥ならぬ發汗劑を藥屋から求めて發汗させるがよい但し醫者に直に罹るが尤もよいのであるが……

●結核患者の注意條件

北米ヒラデルヒヤなるドクルテーラー氏は肺結核患者の治療に熱心なる人なるが氏の病院に於ける同患者心得書なるものは左の如きものにして勵行しつゝありと云ふ

一、喀痰を猥りに出す勿れ殊に廊下道路等に於て勿論如何なる所と雖も結核病源菌の發生に適せざる所に於て喀痰する勿れ

二、喀痰を呑む勿れ、肺咽喉にある喀痰は胃中に嚥下す可らず一定の痰壺に出すべし

三、痰壺に喀出せよ

四、能ふ可くは常に自ら痰壺を持て

五、陶製土製の痰壺を用ふる者は常に之れを「クロール」石灰水に入れて消毒せよ

六、金屬製痰壺を用ふる者は其の內側の紙製袋を出して燒却し金屬壺は熱湯にて洗ふ可し五及六件は何れも毎日一回以上行ふ可し

七、「ハンケチ」を用ふる勿れ喀痰又は口腔を拭ふ時は必ず紙片を用へよ而して其の紙片は直に燒却せよ

八、若し痰壺に喀出し能はざるものは紙製「ナフキ

ン」に咯出せよ

九、常に紙「ナフキン」を用へて口唫を拭ひ決して手にて直に觸る勿れ

十、常に廉價の紙製袋を持ち咯出せる痰を包める紙「ナフキン」を此の袋に入れよ

十一、常に此の事は忘る可らず

十二、毎夕就床前咯出せる痰は夫れ〳〵消毒の處置を爲す可し

十三、咯痰を決して口唇手、衣服、寢具、家具等に附けざる樣注意す可し

十四、若し誤て咯痰を附し紙「ナフキン」を落し又は痰壺を倒したるが如き時は直に燒灼又は「クロール」石灰にて消毒す可し

十五、鬚あらば成る可く之れを剃り或は咯痰の附着せざる樣注意す可し

十六、常に口唇手指を洗ひ殊に飮食前に於ては殊更ら清洗す可し

十七、クシャミの突然出てたる如きして咯痰を出したる時は直に脱脂綿にて拭ひ燒却すべし

十八、呼吸を高むる勿れ牛乳其他飮料物は熱きものは冷却を待ちて飮む可し

十九、握手、接吻を必ず爲すべからず若し斯の如きことをなす時は知己友人をして亦結核病に罹らしむるのみならず又自己も他人より疾病を受けて己れの病狀を更に重體ならしむべし

二十、努めて咳嗽を爲すべからず若し咳嗽をなすときは口に「ナフキン」を蔽ひ然る後爲すべし

二十一、雇戸を離れて立つべし樓下に於て成るべく手摺に倚るべからず

二十二、醫師より諫められたる外決して過劇の運動をなすべからず

二十三、成るべく窓を開きて眠るべし

二十四、疲勞を求むべからず

我國に於ても肺結核は年々增加し有爲の壯年者を斃すに至るは實に遺憾此上もなきことなるが今にして大に防遏の法を講ぜざれば實に寒心すべきものあり

今警視廳第三部に於て調査したる昨年中の該病死亡者は東京市内のみにて左の如くなりと云ふ

	一般死亡者	肺結核死亡者	百分比例
男	一七•五八八人	二•八二九人	一六•〇八
女	一六•六五一人	二•八二七人	一六•九七
計	三四•二三九人	五•六五六人	一六•五二

之に因りて見れば結核の死亡者は一般の死亡者に對し約六分の一に方り三十七年末現住人口に比すれば左の如し

	卅七年度末現住人口	肺結核死亡者	萬分比例
男	六六三•一二三	二•八二七	四一•九
女	六一四•〇三一	二•八二二	四六•〇
計	一•二七七•一五三	五•六五六	四四•三

即ち人口一萬に付四四、三の比例にして外國の例は左の如く何れも我國の比較多數を占む

倫敦	一七•三	伯林	三二•三
紐育	二四•六	ブレスラウ	三四•九
巴里	四一•六	聖彼得堡	四四•三

又東京に於ける以上の肺結核患者死亡を各區に分つときは淺草の七百四十一人尤も多く之に次ぐは本所五八七、芝五七一にあり詳細の次表の如し

	肺結核死亡者	人口に對する萬分比例
深川	四五〇人	五一•七
下谷	四九六人	五一•二
芝	五七一人	四九•六
本所	五八七人	四八•二
本郷	三三三人	四六•六
淺草	七四一人	四五•六
京橋	四七一人	四五•四
四谷	一六八人	四四•五
麻布	二一九人	四二•九
神田	四八四人	四二•三
小石川	二八二人	四二•〇
牛込	二四五人	三八•〇
麹町	一六八人	三七•七
赤坂	一一八人	三二•六
日本橋	三二三人	三一•三
計	五六五六人	四四•三

▲湯屋の危險　市內の湯屋營業者は年々に增加して目下二千百六十六を算し尚ほ追々增加すべき傾なるが同業者中從來鹽湯、藥湯、溫泉等の名稱にて營業せる向は全數の約三分の一を出でざりしも水道使用

後は此等藥湯の營業者日々增加し此等の營業者は何々の諸病に特効ありなど能書を麗々しく掲け居れど其實孰れも水税の儉約をなす算盤づくよりの思ひつきにて前日の殘湯を翌日も使用し其臭氣を防ぐ爲めには香氣よき草根木皮等を袋に入れ湯槽の中に投じ其太だしきは草津温泉、那須温泉など稱して硫化加僧謨を混じ白色の湯をたて居るものもあり此等は右藥品の硫黄香高きを利用し前日の湯なればまだしも二日も三日も前の殘湯に新湯を加へ行く始末なれば掲示の諸病に有効所の沙汰にあらず健康者に迄障害を與ふること稀らしからずとの事なれば錢湯に入る人はよく〳〵注意すべしとなり

▲陸軍々醫學會の懸賞新案擔架募集　石黒紀念碑第二回懸賞課題は題名の如く決定され其論文の要約は左の如にして答案者は製作品と共に來四十年五月末日限り陸軍衛生材料廠宛提出すべしと

一、衛生隊患者輸送部の傷病者運搬用として使用するに足るべきこと
二、二人伍を以て用に供ふに適すべきこと
三、一個の重量は約三貫目を超へざること
四、日覆(雨覆)支脚を有すべきこと
五、堅牢にして操作に簡易なるべきこと
六、馱馬車輛に積載するに適する如く結束し得べきこと
七、其他戰用材料たるべき要項を具備せること

以上の要求に應じ得たるものには其等差によりて三十圓以上二百圓以下の褒勵金及び石黒紀念碑を授與すと云ふ

▲衛生材料改良　陸軍衛生材料廠にては日清及び日露戰役の實驗に依り從來我衛生隊に於て使用せる藥品中水藥は寒氣に遇へば氷結し咄嗟其の用をなす能はざるより凡てを錠劑に改めんと研究中なりしが此程に至り其の研究を終りたる由にて爾後我軍隊に於ては水藥を廢し是等の錠劑のみを使用する筈なりと

▲衛生部員の死傷實數　日露戰役中陸軍衛生事業に從事したる人員は軍醫總監以下四萬三千九百九人にして内軍醫四千五百十七名、藥劑官六百三十九名にして其他は看護長、看護手、看護卒、磨工等なるが其死傷者は五百七十三名にして内軍醫戰死者十九名

同負傷者百四名なりと

▲東京市の傳染病　東京市醫課にて調査せる時昨三十九年中の傳染病統計赤痢四〇一〇同類似二九一〇腸窒扶斯一、四八七猩紅熱一三五實布的里亞一、〇五二合計三、〇七五人なりといふ

▲稲垣醫學士　がハイテルベルヒ大學懸賞論文に當選し金牌及賞金を受領したる次第は前號に記したるが氏は愛知縣の人にして去る三十六年東京醫科大學を卒業し三十七年私費留學せり日本人にて獨逸醫學界の懸賞を獲たるは氏を嚆矢とす氏は去る二十一日アントウエルプ發讃岐丸にて歸朝の途に就き三月十六日横濱到着の筈にて歸朝後は故大鳥醫學博士の後を襲ひ臺灣病院に赴く由なり

▲營口及熊岳城のペスト　熊岳城附近の村落にペスト發生し一月九日以來七八十名の多きに達し營口に於ては去月十七日以來三四十名の患者發生せるも未だ日本人及西洋人中には感染者なしと目下檢疫實施中なりといふ

▲看護婦人隊の旅順行　今回關東州病院（元露國赤十字病院跡）開院に付赤十字社本社より同社の看護婦として手腕ある松原てよ子間瀬ゆき子外十二名を出張せしめしといふ

▲ペスト血清成績　内務省衛生局に於ては近時ペストの流行につれペスト血清を治療及び豫防の二樣に使用せしめ居れるが其成績頗る良好なるを以て今後不幸にして其の流行を見る事あらば勉めて此方法に依る方針なりと

▲萬國赤十字社大會　日本赤十字社は六月上旬英國倫敦に於て開催さるべき萬國聯合赤十字大會參列の爲め評議員有賀博士出張のことに決定したる由にて出發は多分四月下旬頃なるべく尚過般同博士の手により著述されたる日露戰役救護史をも携ふる筈なりといふ

食物調理法

治庖會主幹　安西こま子

▲ゐのこ角煮

豚の赤肉を撰び、大なる骰子形に切り、一時間程湯煮をなせし後ち、其湯を切り更に新らしき湯を加へて汚物を洗ひ流し其跡へ味淋六分と清酒四分との割りに合せる汁を充分に肉が被る程加へ文火にかけゆるゆると煮ふくめ凡そ七分通り煮込みたるとき醤油を注し而して汁が九分通り煮詰るまで煮るべし

但し好みによりて薄く庖丁せる生姜を加へて煮るも可なり

むしかぶ

▲　薄あんかけ

おろし生姜

中蕪を撰び、其皮をむき、水洗ひして之を柔らかに蒸して椀に盛り、其上に薄あんをかけ、おろし生姜を少しく摘み上置きと為して侑むべし　但し薄あんの製方は、醤油に少しく砂糖を加へ一寸と煮立てて之に鰹節の煮出汁を加へ程好き加減となして火にかけ、一沸して火よりおろし之に水に溶きたる粉葛を徐々に垂らしこみ又火にかけ、葛が凝るを待ちて火よりおろすべし尤も其濃さの加減は蕪にかけて流れちらざる程にゆるくすべし

むきみ

▲細〳〵葱

三州みそ

卯の花汁

水(一合)を煮立て此中へ庖刀にて刻みたる三州味噌(並盃一杯)と鰹節の心の處を削りたるもの(並盃半分程)とを同時に投じ一沸して火より鍋をおろし其まゝ三分間程置き、金杓子にて一寸と攪拌して他の鍋へ漉し込み又煮立て之に卯の花と水洗ひしたる

淺蜊の剝肉とを入れ、再び煮立つを待ちて椀に盛り其上へこま〲葱を撒りかけ蓋をなして佇むべし但し括弧内の數量は一人前の量なり

▲鰯まろめあげ

鰯の頭と中骨とを除き、皮を引き、庖刀にて細かく敲き、之に其量の一割程のみぢん葱と生鷄卵を少しく（鰯の肉百目の量に小なる鷄卵一個の割合）とを加へ尙ほ之に鹽と胡椒とを加へて能く混じ之を適宜の大さに丸め、胡麻油にて揚げ之を目笊の中へ入れ、其上より熱湯を注ぎ油拔きをなして茶碗の種となすべし若し甘煮の種に用ひんとするときは前法より鹽と胡椒とを除くべし

▲ボール、ビーフ
キャロット
ポテト

牛肉（百五十目）を細かく敲き之に食麵麭（半斤の四分の一）のかたき處を除き一寸と水に浸して水を搾りたるものと鷄卵（二個）と鹽と胡椒とセリー酒少少とを加へ能く混合して之を二十個程に丸めフライペン（揚鍋）に入れ牛脂にて少しく焦る程充分に煠め更に之を牛酪にて煠めたる後ち米利堅粉を少しく撒りかけ、一寸と煎り付け、次に牛肉或は鷄のスープを加へて暫らく煮鹽と胡椒とを加味し煮汁と共に皿に盛るべし（十人前の積りなり）

キャロット（胡蘿蔔）とポテト（馬鈴薯）とは皮をむき、小なる骰子形に切り、淡鹽湯にてゆでたる後ち牛酪にて煠め之に鹽と胡椒とを加へ味をつけしものなり

大日本婦人衛生會記事

本會二月例會

二月二日午後一時半より神田區一ッ橋通女子職業學校に於て例會を開く席定まるや醫學士佐藤得齋君には不姙症に就て其原因豫防等に付詳述せられ次に

ドクトル富士川游君には身體及其保護と云へる演題にて身體保護の講話に必要なる基礎として先づ其發育の順序に付講話せられ右終りて午後四時散會せしが當日の來會者は會員及傍聴者を合せて約百餘名なりき

當役員の出席は左の如し

濱尾副會長、長谷川仲子、田村き代子、羽田三緒子、
三瀦　数子、岡山とし子、岡田とく子　鳩山　春子(出席順)

米澤支會報告

●新年大會

去る一月十三日午前十時より公園内松岬館に於て新年會を開き左の順序によりて擧行せられ

一開會の辭　副會長松山秋子
二、講話　三、茶菓　四、晝飯
五、餘興　一、唱歌　二、劍舞　三、遊戯
四、ウアイオリン合奏　五、遊戯
六、劍舞　七、ウアイオリン　八、遊戯
六、福引

來賓は中山警察署長、田中兩羽銀行支店長、矢尾板道雄、猪股松三郎、關新太郎、楠川良策、須貝周助、高橋遂之助、矢島善助、千坂衞生掛、小濱藤吉、豊島喜代次諸氏にして會員は百餘名着席するや會長上杉安子刀自事故ありて臨席せられざりしを以て副會長松山秋子刀自は代て開會の趣旨を述べられ且つ本會創立以來既に五星霜を經其の間講師諸氏の熱心に講話されしを謝し會員諸氏益々奮勵本會の隆盛を謀られんことを希望され次ぎに講師猪股松三郎氏は姙身中の攝生に就き詳細なる講話あり次に講師楠川良策氏は産褥中の心得に就き有益なる講話あり次に來賓中山彌平、櫻井美成兩氏の講話あり終て休息茶菓の饗應ありしが時恰かも正午なりしを以て中餐の饗應あり終て餘興を開かれたるが餘興は、バイオリン、の合奏あり唱歌の獨奏あり遊戯あり劍舞あり福引あり滿場喝采湧くが如くなり！餘興中小濱藤吉氏は自作に成れる左の唱歌を獨唱されたりし

松竹鶴龜に寄せて

嵐にたへる　老松の　千歳ことふく　色つやも
若しや害虫　襲ひなは　たちまち枯に　たつものの
ぞ
風に折るゝ　若竹も　よくその保護を　加へなば
年に數丈の　丈けも延ひ　雪の重さも　よく堪へ
る
人も衛生　わきまへて　食をつゝしみ　運動し
よく身を清め　心せは　鶴の齢を　保つらん
社會は都て　衛生の　道を守りて　進みなは　皆
諸ともに　健全に　亀の齢の　保つらん

衛生に關し

假令ふせ屋の　住居とて　光りよくさし　風かよ
ひ　清く掃除の　届きなは　たへて病は　なかる
へし
衣はきぬに　あらずとも　洗ひきよめて　まとへ
なは　心地もよくて　見へもよく　わるき病に
おそわれず
口はやまいの　門とかや　舌に飽なき　美味とて
も　食を過すは　おろかなり　惟に適度を　守れ
かし
數多男女を　召し使ひ　自らすへき　用なきも
何をかすへし　はたらくは　身の健かの　もとひ
なり

茨城支會報告

新年會

一月二十日午前九時より水戸公園弘道館に於て新年會を兼て例會を開催し蓄音機の餘興數番ありて午後三時閉會せりと出席者は定會員及臨時出席者等計六拾名計りなりしと

同支會は昨三十九年九月以後十二月迄毎月水戸公園弘道館内に於て例會は休會することなく開催しつゝありしといふ

去十二月廿六日茨城支會長寺原松子の君には福岡へ轉任の爲め會長を辭任せられたりと

○本會入會者

○大學諏訪なみ子紹介
●神田區下白壁町十一　通常會員　渡邊てつ子

○四ツ谷松本育子紹介
●内藤新宿三ノ五十八、日原病院内　通常會員　増田常子

○日本橋田村喜代子紹介
●日本橋區大傳馬鹽町十四　特別會員　佐藤とく子

○伊豫高田直子紹介
●松山市二番町イ五號　通常會員　宇都宮五十鈴

○改姓名

●神奈川　限本知惠子改メ　通常會員　西知惠子
●麻布　淺井梅子改メ　通常會員　錦織梅子
●北海道　野田ふく子改メ　通常會員　野田秀子

○茨城支會入會者

●茨木市　通常會員　根本能司子
●同　通常會員　水原きん子
●同　通常會員　高橋のぶ子
●同　通常會員　馬場とく子

轉居

●牛込區市谷田町二ノ十一余田輝方へ　寺本谷子
●山口縣山口町字白石へ　諏訪鶴久子
●赤坂區青山高樹町十二へ　淺田みか子
●下谷區徒士町一ノ卅五前田方へ　早川花子
●筑前國若松町大字修多羅山手通二丁目住友社宅へ　吉田香小枝子
●鹿兒島市春日町卅二へ　島津治子
●山形縣東村山郡天童町三日町志田病院内へ　林正子
●牛込新小川町三ノ三十一へ　稲垣すゞ子
●岡山市大道町三友寺内へ　吉富恵茂子
●長野縣飯田箕瀬町へ　井上ぎん子
●小石川區新諏訪町十六へ　久保田不二子
●相州鎌倉御用邸側へ　平田久子
●福島縣石城郡泉村字泉十六へ　松下貞子
●愛媛縣松山市北京町へ　淺井ひで子
●仙臺市米ヶ袋中丁五十五へ　椿隆子
●本郷區西片町十ろノ四へ　関野小枝子
●神戸市山本通四ノ百卅二へ　楢崎竹子
●宇都宮市傳馬町卅三行森氏方へ　宇都宮支會
●赤坂區溜池二番地四十號へ　櫻井かほる子
●麹町區飯田町六ノ二十二守田氏方へ　木部まつ子
●神田區松下町二十二へ　平山てる子
●兵庫縣武庫郡御影町内の郡家一三六へ　中村久眞子
●芝區高輪北町四十八へ　茂木操子
●府下荏原郡下大崎百八十へ　松波好子
●廣島縣呉海軍工廠へ　鳳岡明子
●福岡市船津町三十四ノ二へ　榊梅子
●福岡市市立小倉病院へ　大村瀾壽子

新刊寄送書紹介

手島益雄著

農村幸福法　發行所　東京本郷東片町百十一　新公論社　一冊　定價三十錢

農は國の大本なり農村の生活はよく世と推移して進歩發達を圖り以て農家の幸福を増進せしめざるべからず是れ目下の急務と云ふべきなり手島氏茲に見るありよく農家の子女にも理解し易からしめんが爲め繪入ふり假名附なれば苟も農村生活を營むもの丶必讀すべき良著なり、

●寄贈交換雜誌

日本赤十字	京橋區築地二ノ廿一	日本赤十字發行所
日本婦人	府下豐多摩郡澁谷村字常盤松御料地内	帝國婦人協會
新潟縣衛生會雜誌	新潟縣廳内	新潟縣衛生會
衛生協會雜誌	日本橋區永久河岸八號地	日本橋區衛生協會
日本の家庭	神田區表神保町二	同文館
統計集誌	京橋區山城町六	東京統計協會
東京藥事新報	京橋區楓町四	東京藥事新報社
東京市教育會雜誌	東京市役所内	東京教育會
東京小間物化粧品商報	日本橋區馬喰町二ノ十九	東京小間物化粧品卸商事務所
同仁	神田區一ツ橋通二十一	同仁雜誌社
東京技藝新報	小石川區初音町二十	東京技藝新報社
治療藥報	日本橋區南茅場町二	治療藥報社
大坂婦女新聞	大坂西區江戸堀南通一ノ十四	大坂婦女新聞社
家庭新聞	熊本市内坪井町一五八	家庭新聞社
家庭の栞	新潟縣女子師範學校内	新潟縣女子教育會
大日本耳鼻咽喉科會報	東京醫科大學耳鼻咽喉科醫局内	大日本耳鼻咽喉科會
體育	府下荏原郡大井村字北濱川	日本體育會
通俗衛生	大坂西區土佐堀通三ノ廿九	大坂私立衛生會
牟婁新聞	和歌山縣西牟婁郡田邊町上屋敷町六十五	牟婁新聞社
藥學雜誌	牛込區下宮比町八	日本藥學會
藥石新報	大坂西區江戸堀下通三ノ卅六	藥石新報社
藥事時報	神田區鍛冶町廿一	藥事時報社
婦人世界	大坂南區末吉橋通四ノ六十三	浪華婦人會
婦女新聞	牛込區東五軒町四十一	婦女新聞社
婦人新報	赤坂區榎坂町五	婦人新報社
婦人とこども	本郷區女子高等師範學校内	フレーベル會
國學醫學會雜誌	本郷區富士町一	國家醫學會雜誌發行所
工手ノ母	大坂北區西野田新家四ノ町番外三二ム	工手ノ母新聞社
交通世界	埼玉縣浦和町三九三五	交通協會
衛生報知	神戸市相生町一ノ二十七	私立神戸市衛生會

（未完）

明治四十年一月現在

私立大日本婦人衛生會本支會々員名簿

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會名簿

總裁東伏見宮依仁親王妃周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　濱尾作子
幹事　鳩山春子
同　羽田三緖子
同　岡田德子
同　高木鐐子
同　山本多穗子
同　松平芳子
同　三浦敎子
評議員　石川さだ子
同　岩下ゆか子
同　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　穗積歌子
同　土肥多越子

評議員　緒方悅子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　片山かめ子
同　吉武輝枝子
同　丹波貞子
同　高橋孝子
同　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　中濱芳子
同　子爵夫人　松平正子
同　岸澄子
同　三宅蔴子
同　宮本樂子
同　宮下咲子
同　缺員一人

* * * * * * * *

本會賛成員（順次不同）

（●本會に於て講演又は執筆せられし諸氏）

日本橋區久松町四十	醫學博士	●入澤達吉
小石川區戸崎町六十一	理學博士	●飯島魁
京橋區南鍋町一丁目七	ドクトル	●伊澤信平
		●色川圀士
地方	醫學博士	●伊東祐彥
本郷弓町二丁目	ドクトル	●飯盛挺造
地方	醫學博士	●伊藤隼三
麹町平河町	赤十字社	●岩井禎造
四谷區大番町十九	理學博士	●石川千代松
小石川區金富町三十三	帝國大學總長	濱尾新
神田區北甲賀町十	醫學博士	●濱田玄達
小石川區音羽七丁目十	法學博士	●鳩山和夫
赤坂區新町三丁目十五		秋原彌四郎
洋行中	醫學博士	●芳賀榮二郎
本郷區		●長谷川泰
本郷區東片町百十六	醫學博士	●緒方正規
麹町區下二番町四十六	醫學博士	●土肥慶藏
麹町區三番町三十六	醫學博士	●岡田和一郎
本郷區東片町百三十一	醫學博士	●大澤謙二
	醫學士	●大西秀治
本郷區曙町十六	醫學博士	●大澤岳太郎
本郷區弓町二ノ二十一		●恩田重信
麹町區上二番町四十四	文學博士男爵	●加藤弘之
麹町區五番町十四	醫學博士	●加藤照麿
神田區小川町五十一	醫學士	●賀古鶴所
麹町區富士見町四ノ四	醫學博士	●河本重次郎
本郷區西片町十、ろノ二	醫學博士	●片山國嘉

神田區北甲賀町	醫學博士	●金杉英五郎
秋田縣小坂鑛山病院	醫學士	●米山彥郎
芝區芝伊皿子町七十五	ドクトル	●高山紀齋
赤坂區青山原百九十六番地	三等軍醫正	●横井忠國
京橋區西紺屋町十	醫學博士	●高木兼寛
麹町區内幸町一丁目三	法學博士	高木豐三
下谷區練塀町田代病院	醫學博士	●田代義德
赤坂區高樹町八	男爵	高崎正風
神田區駿河臺鈴木町二	醫學士	●高田耕安
本郷區駒込妙義坂二五三	藥學博士	●丹波敬三
下谷區東京衛生試驗所内	醫學博士	●田原良純
下谷御徒町三ノ三十五	醫學士	●田村化三郎
本郷區弓町二ノ二十四	大日本教育會長	辻新次
本郷區西片町十、いノ十一	理學博士	●坪井正五郎
麻布區本村町四十四	男爵	南部甕男
麹町區有樂町胃腸病院	醫學博士	●長與稱吉
赤坂區青山南町七丁目三	理學博士 藥學博士	●長井長義
麹町區下二番町七十四	醫學博士	●中濱東一郎
本郷區彌生町二、はノ十七號	醫學博士	●隈川宗雄
麹町區富士見町五丁目三	醫學士	●山根正次
京橋區築地三丁目十五	醫學士	●山田鐵造
本郷區駒込千駄木町五十七	東京衛生試驗所	●丸山長四郎
麻布	男爵	●後藤新平
本郷區元町	ドクトル	●小此木信六郎
小石川區指ヶ谷町盲啞學校	盲啞學校長	●小西信八
赤坂區青山南町二ノ四十二	醫學士	●古川榮
小石川區高田老松町二十一		布施正顯
歸國中		●エ、ベルツ
	醫學士	●甲野棐
小石川區豐川町二十四		●寺田勇吉

神田區北甲賀町十四	子爵	秋元興朝
牛込區東五軒町十四		足立寛
日本橋區矢ノ倉病院	ドクトル	新井古芳
神田區北甲賀町十一	醫學博士	佐々木政吉
横濱	ドクトル	朝山義六
日本橋區矢ノ倉櫻井病院長	醫學士	澀井郁二郎
福岡醫科大學教授	醫學博士	櫻井恒次郎
府下品川大横町		齋藤満文
麹町區三番町十二	醫學博士	榊順二郎
麻布區今井町二十二	醫學士	北村精造
本郷區森川町一、中通百〇六號	醫學博士	木下正中
	ドクトル	北川乙二郎
神田區三崎町三丁目一	醫學博士	三浦守治
神田區北甲賀町三	醫學博士	三浦謹之助
麹町區內幸町一ノ三	醫學博士	三島通良
小石川區竹早町八十一	醫學博士	三宅秀
熊本		ミスリデル
小石川區竹早町八十一	理學博士	箕作佳吉
神田區雉子町三十一	小兒科	宮本仲
神田區三崎町三丁目一	醫學博士	三輪信太郎
地方	醫學士	島村俊一
小石川區林町六十二	伯爵	土方久元
麹町區飯田町六ノ十九	醫學博士	弘田長
小石川區春日町四十九	ドクトル	須田卓爾
神田區小柳町十三		小高良造
神田區淡路町二ノ四第一號	醫學士	佐藤恒久
牛込區市ヶ谷砂土原町三ノ一六	醫學博士	栗本東明
麹町區中六番町二十四	醫學博士	高橋順太郎
神田區南甲賀町十七	醫學博士	朝倉文三
京橋區數寄屋町三ノ七	醫學博士	林春雄

芝公園五號	醫學博士	北里柴三郎
下谷區徒士町三丁目五十八	醫學士	笹川三男三
福岡醫科大學教授	醫學博士	榊保三郎
麹町區虎ノ門內女學館內		西田敬止
歸國		ミスヒユース
小石川區大塚窪町四十三		高嶺秀夫
神田區元柳原町三十		原胤昭
本郷區西片町十、ろノ十號	醫學博士	呉秀三
神田區錦町三丁目四	小兒科	小原頼之
神田區猿樂町十二	婦人科	水原漸
日本橋區本石町二ノ七	醫學士	田村光顯
福岡醫科大學教授	醫學士	久保猪之吉
本郷區西片町十、ろノ十號	醫學博士	佐藤達次郎
四谷區本村町三十七	ドクトル	山上兼輔
神田區小川町六十	醫學士	宮本叔
日本橋區呉服町二十	ドクトル	志村誠應
牛込區市谷谷町五十一	陸軍步兵中佐	堀內文次郎
本郷區曙町十七	醫學士	石原久
東京醫科大學衛生學教室	醫學士	石原喜久太郎
本郷區	醫學士	唐澤光德
小石川		ミセスコーツ
本郷區西片町九	ドクトル	富士川游
芝區三田二ノ十四	ドクトル	松山陽太郎
四谷區坂町五十六	醫學士	山田弘倫
下谷區練塀町三十五	醫學博士	桐淵鏡次
本郷區千駄木町二十二	醫學博士	森林太郎
本郷區弓町二ノ二十三	醫學士	橋本左武郎
麹町區六番町三十一		島田三郎
海軍々令部	子爵	小笠原長生
小石川區竹早町九十	醫學士	栗本庸勝

本鄕區駒込東片町百五十二　醫學士　磐瀨雄一
神田區裏猿樂町六　醫學博士　能勢靜太
神田區駿河臺鈴木町十六　醫學博士　遠山椿吉
東京醫科大學皮膚科　醫學士　大野豐太
神田區東紺屋町六　醫學博士　木村德衞
日本橋區蠣殼町二ノ三　ドクトル　日高昂
赤坂區表町三ノ三六　醫學士　寺田豐作
日本橋矢ノ倉町二、　醫學士　寺田織尾
本鄕區臺町廿七鳳鳴館内　醫學士　澄川德
日本橋區品川町八　醫學士　樫田龜一郎
神田區猿樂町　醫學博士　佐藤三吉
下谷區彌生町二　ドクトル　佐藤述雄
日本橋大傳馬町十四　醫學士　佐藤得齋
日本橋區北島町一ノ三十三　醫學博士　岡田榮吉
牛込區二十騎町十七　醫學博士　北島多一
日本橋區本町一ノ十二　ドクトル　菊地循一
淺草區須賀町　醫學士　鳥居春洋
本鄕區駒込淺嘉町七十四　ドクトル　土田卯三郎
本鄕區曙町十四　醫學士　河野衞
本鄕區眞砂町二十八　ドクトル　西山信光
本鄕區千駄木町五十五　醫學士　渡邊房吉

●終身會員（いろは順）

本鄕區三組町八十六　石崎つる子
麴町區二番町三十一　井上むつ子
本鄕區春木町二ノ五十六　伊東まき子
小石川區金富町三十三　濱尾作子
小石川區音羽七ノ十　鳩山春子
京橋區築地三ノ四　男爵夫人　花房千鶴子
小石川區小日向臺町一ノ二十　長谷川仲子
東海道大磯　四　升子
神田區北甲賀町四　四邑せつ子
芝區高輪南町五十九　仁禮壽賀子
牛込區拂方町九　德欣歌子
本所區松井町三ノ二　本多學子
本鄕區西片町十、ろノ十六號　岡澤わか子
牛込區早稻田町　伯爵夫人　大隈綾子
淺草區新森田町二　大谷嘉知子
四谷區鮫ヶ橋南町四　勝間田千代子
小石川區茗荷谷町八十一　笠井梅野子
深川區島田町九　鹿島いと子
麻布區狸穴町四　川村春子
牛込區市ヶ谷砂土原町二ノ一　加藤春路子
麴町區上二番町四十四　男爵夫人　加藤鈴子
本鄕區駒込妙義坂二百五十三　丹波貞子
小石川區水道端町二ノ四十一　子爵夫人　田中すま子
麻布區市兵工町一ノ五　田中とら子
京橋區西紺屋町十　男爵夫人　高木とみ子
麴町區中六番町三十六　高木くら子
府下荏原郡入新井村千五百五十　玉塚と代子
牛込區沙土原町一ノ三　鍋倉梅子
麻布區本村町四十七　男爵夫人　南部限子
神田區猿樂町二　上原登子
神田區淡路町一ノ四　宇津木しげ子
日本橋區本船町中村屋方　山崎かつ子
本所區相生町四ノ十七　山本富代子
麴町區上六番町三十三　眞野たか子
本所區綠町二ノ二十四　子爵夫人　牧野英子
府下豐多摩郡大久保村東大久保高楊　蒔田朗子

下谷區谷中天王寺町四　藤村英代子
芝公園十一號地ノ八　安達芳子
芝區伊皿子町七十　岸　澄子
小石川區竹早町八十一　三宅ふじ子
神田區駿河臺袋町十五　三浦數子
京橋區因幡町七　宮下咲子
小石川區水道町二　三井捨子
麹町區平河町六ノ二十　鹽原千代子
下谷區中根岸四十一　清水とく子
小石川區武島町九　清水し津子
日本橋區中洲第五號ノ一　日比谷もと子
赤坂區青山南町六ノ百〇三　森　寛子
芝區高輪北町四十八　佐木操子

●特別會員（いろは順）

淺草區猿若町一ノ三十七　岩田晴子
芝區高輪南町　男爵夫人　岩崎早苗子
麹町區紀尾井町三　男爵夫人　岩下ゆか子
麹町區永田町二ノ三十三　伊集院しげ子
芝區高輪車町三十八　子爵夫人　伊東ちせ子
麹町區三番町八十四　磯部あや子
芝區田町七ノ六　今村き[illegible]子
四谷區大番町十九　石川さだ子
京橋區築地三ノ八　池田米子
府下荏原郡品川町品川宿　男爵夫人　池田艶子
小石川區戸崎町六十一　飯島つる子
麹町區永田町二ノ一　早田純子
赤坂區一ツ木町八十一　羽田三緒子
小石川區指ヶ谷町九　長谷川てう子
下谷區龍泉寺町百四十八　原れい子
麹町區飯田町四ノ三十一　橋本とよ子
神田區駿河臺袋町十三　濱田捨子
京橋區木挽町十ノ十四　林さと子
小石川區林町四十四　濱　欽子
京橋區三十間堀三ノ十七　男爵夫人　四　靜子
本所區石原町一　子爵夫人　細川同子
麻布區廣尾町二　本多梅子
小石川區原町三十四　穗積松子
本郷區向ヶ岡彌生町三　子爵夫人　戸田とき子
芝區三田綱町一　伯爵夫人　德川知子
麹町區下二番町四十六　土肥多越子
赤坂區青山南町六ノ三十　德富靜子
麹町區三番町三十六　岡田總子
赤坂區永川町五十一　太田龍子
日本橋區北島町一ノ三十三　岡田三直子
本郷區東片町百十六　緒方悅子
神田區四小川町一ノ八　岡村隆子
四谷區右京町十三　尾崎菊枝子
牛込區山伏町二十　大澤つや子
京橋區弓町十九　大谷作子
芝區城山町八　大岡榮子
麹町區平川町六丁目十四　岡山とし子
日本橋區小網町四ノ五　大森ちやう子
麹町區土手三番町十木澤方　岡野いく子
牛込區東五軒町二十九　小川孝子
麹町區飯田町四ノ二　沖野りう子
芝區高輪南町五十二　渡邊孝子
麹町區飯田町四ノ九　鷲山彌生子
麹町區五番町十四　加藤常子

本郷區西片町十、ろノ二		片山かめ子
麹町區一番町三十	男爵夫人	金子家壽子
神田區北甲賀町		金杉松子
麹町區飯田町六丁目		樫村榮子
神奈川縣高坐郡鵠沼村	男爵夫人	川口直子
麹町區富士見町四ノ四		河本かめ子
麹町區下二番町四十一		吉武輝枝子
麻布區三軒家町霊門教會内		横田秀野子
麹町區上二番町二十五	公爵夫人	鷹司順子
日本橋區元大工町九		高橋瑞子
麹町區内幸町一ノ三		高木錄子
日本橋區本石町二ノ七		田村きよ子
芝區二本榎西町二		高山愛子
麹町區中六番町二十四		高橋ルイゼ
日本橋區本町二ノ十二		高橋孝子
下谷區練塀町六十一		田代はる子
府下豊多摩郡大久保百人町南通一		竹中春子
牛込區小日向水道六十一		田川數枝子
麹町區飯田町五丁目		園田きん子
芝區巴町二十九		曾根しん子
本郷區弓町二ノ二十四		辻さと子
小石川區茗荷谷町六十七		津輕りき子
麹町區紀尾井町三		鶴原誠子
小石川區原町十三		中村銑子
麻布區北日ヶ窪		長與園子
麹町區下二番町七十四		中源芳子
日本橋區蛎殼町三ノ五		長井とし子
麹町區永田町二ノ一	侯爵夫人	鍋島榮子
牛込區南町三十三		中村音海子
小石川區宮下町十		中村春子
淺草區左衛門町一		中山幸子
日本橋區呉服町二十二		中野咲子
深川區佐賀町二ノ二十二		長江しげ子
本郷區千駄木林町十七		中野嘉代子
淺草區三間町五、共立看護婦會		中島照子
芝區琴平町十五		植村まき子
本郷區金助町十二	男爵夫人	野田すみ子
福岡帝國大學官舎		久保よりえ子
牛込區市谷仲町五十七		織田しげ子
赤坂區福吉町一	侯爵夫人	黒田清子
本郷區彌生町二、はノ十七號		隈川京子
京橋區弓町二十四		黒河内朗子
小石川區新諏訪町十六		久保田不二子
芝區三田功運町三十九		八十島總子
赤坂區檜町三		山脇ふさ子
麻布區東町二十		山地謙子
牛込區揚方町九		山口てい子
麹町區上二番町三十八		山本多穂子
四谷區元鮫ヶ橋町五十八	伯爵夫人	松平尭子
麹町區飯田町六ノ二十	子爵夫人	松平正子
本郷區龍岡町八	子爵夫人	松平八百子
赤坂區表町四ノ四	男爵夫人	松平豁淵子
赤坂區表町四ノ四		松平芳子
麻布區材木町十二		松岡光子
牛込區市ヶ谷加賀町二ノ二十八		松井喜代子
京橋區築地明石町六十一		藤村とめ子
本郷區東片町百二十七		藤井靜子
京橋區出雲町一		福原とく子
本郷區弓町二ノ三十四		古市こう子
京橋區遞信省官舎		小松いさ子

麻布區市兵衛町二ノ八十九　呉廣子
日本橋區檜物町十八　兒玉あか子
京橋區南金六町十五　遠藤波津子
日本橋區村松町十二　安藤つま子
神田區北甲賀町十四　子爵夫人　秋元宗子
麻布區市兵衛町二ノ二十六　新井多計子
牛込區新小川町十四　秋田治子
麻布區今井町三十六　相磯まさ子
麹町區上六番町二十　足立清子
本郷區弓町二ノ三十四　青山孝子
神田區南甲賀町十七　朝倉ゆき子
芝區三田松坂町三十四　阿部優子
麹町區上二番町四十四加藤氏方　榊梅子
神田區淡路町二ノ四、一號　佐藤梅峯子
神田區駿河臺北甲賀町十一　佐々木芳子
本郷區湯島新花町九十八　佐藤らく子
芝區下高輪町五十五　齋藤春子
本郷區西片町はノ十九號　佐藤みさほ子
小石川區原町百二十六　坂谷こと子
芝區三田四國町十五、五號　佐藤うた子
赤坂區新坂町三十　櫻田節瀾子
本郷區弓町一丁目　男爵夫人　菊地たつ子
麹町區四番町五　木内磯路子
牛込區砂土原町一ノ二　菊地みれ子
芝區城山町一　男爵夫人　清浦とよ子
赤坂區青山原宿二十六　木場こゆり子
日本橋區本町一ノ十二　菊地みや子
麹町區富士見町一ノ二十九　三井五十子
神田區雉子町三十一　宮本樂子
麹町區四番町十四　三輪田眞佐子

芝區三田豐岡町六十八　水野清子
神田區駿河臺北甲賀町十七　清水たけ子
麻布區廣尾町三十　白石まむ子
牛込區若宮町四十一　首藤流子
麹町區永田町二丁目　下田歌子
芝區榮町十三　伯爵夫人　久松貞子
麹町區飯田町六ノ十九　弘田益子
神田區駿河臺袋町十二　男爵夫人　平田迪子
京橋區南小田原町四丁目一　森岡きみ子
小石川區原町十九　茂木政子
淺草區吉野町二十四　百瀬きよ子
京橋區南佐柄木町五　守屋千代子
芝區高輪南町　毛利安子
牛込横寺町五十八　杉山こと子
小石川區春日町四十八　須田しつ子
四谷區須賀町二十四　杉村よし子

●通常會員

いノ部（いろは順）

牛込區早稲田馬場下町三十五　犬養千代子
牛込區東五軒町四十二　伊藤琴子
牛込區北町三十三　石川さわ子
小石川區關口水道町三十　井上光子
芝區田町一ノ十二　石河里子
麹町區永田町一ノ十七　男爵夫人　伊東やへ子
赤坂區溜池榎坂町四　岩野幾世子
牛込區新小川町三ノ三十一　稻垣すゞ子
麻布區宮村町四十二　伯爵夫人　井上武子

石黒よし子　芝區巴町二十四
石川さの子　小石川區指ヶ谷町盲唖學校
井口德子　府下豊多摩郡千駄ヶ谷村原宿二百貮
飯塚まつ子　京橋區南鍋町一ノ六
五十嵐つれ子　神田區駿河臺鈴木町五
岩永さと子　府下荏原郡目黒村下目黒坂下一五六
今村末子　本郷區彌生町十六
石黒すま子　赤坂區溜池町二
今田初子　本郷區天神町一ノ九十四
稲垣かつ子　四谷區坂町九十
井澤ろく子　深川區木場町十五
一井てい子　麹町區飯田町一ノ四
犬養かつ子　下谷區谷中清水町一
出淵のぶ子　神田區今川小路三ノ三
嚴崎孳子　下谷區櫻木町二十九
石光佐家子　赤坂區青山北町六ノ三十三
飯泉はん子　下谷區坿町二ノ廿七
飯田幸子　牛込區袋町八
井上美代子　芝區三田四國町二十八
井本秀子　神田區仲猿樂町十七
井ノ口たず子　小石川區西原町二ノ四十
石崎ひさ子　京橋區桶町二十六
伊藤こう子　四谷區荒木町廿七ぬ十二
磯部つや子　日本橋區上槇町二十一
祝のぶ子　本郷區四片町十、ろノ八號
井上なか子　日本橋區久松町廿九看護婦會
石丸德子　芝區櫻川町二
井倉れい子　麻布區宮村町九
石井ふ美子　本郷區駒込四片町十、いノ十三號
岩船貞子　牛込區藥王寺前町五十一芹澤氏方
磯野きく子　麹町區隼町三十七
石久保美伊子　日本橋區小傳馬町三ノ一
池谷八重子　京橋區舟松町十五
稲田きく子　本郷區駒込四片町十、ほノ廿三號
岩佐この子　日本橋區長谷川町一、片山方
石橋はや子　小石川區巣鴨病院内
岩垂梅子　芝公園第廿五號ノ一
今みつを子　麻布區山元町三十三
井上よし子　本郷區彌生町二
伊東かう子　京橋區日吉町三

はノ部

長谷川ゆか子　本郷區東片町四十八
橋本ちせ子　赤坂區青山南町六ノ七十六
林竹子　麹町區下二番町三十一
服部仲子　牛込區拂方町十
服部もと子　本郷區四片町十、へノ五號
原みつ子　麹町區飯田町三ノ十五
林粂子　本所區向島須崎町二七七
林つる子　日本橋區北鞘町二
林さく子　神田區小川町四十一
原政子　神田區南甲賀町八
馬場きく子　小石川區林町十三、四
橋本滋子　牛込區北山伏町三十五
橋本くら子　京橋區南鍋町一、
早川花子　下谷區二丁目三十八
長谷川たよ子　赤坂區新坂町三ノ四十四
萩原ひさ子　小石川區原町百三十三
橋本ゐま子　淺草區駒形町三十二
早川稔子　牛込區白銀町三十

本所區北二葉町二十五　島山入重子
淺草區北三筋町一　林はる子
日本橋區泊屋町十五　花岡ゆき子

に ノ 部

麹町區飯田町六ノ十六　四尾京子
牛込區仲町十一　仁尾しげ子
神田區猿樂町二ノ一新野方　西村藤子
麻布區箪笥町六十五　錦織梅子
下谷區二長町五十二　四川ぬい子

ほ ノ 部

赤坂區青山南町七丁目青山學院　本多てい子
日本橋區坂本町十七鈴木緻方　堀田いわ子
神田區鍛冶町七　堀内ゑん子
日本赤十字社第一號寄宿舍　北條あい子

と ノ 部

牛込區若宮町十三　豐島清子
牛込區二十騎町三十森方　俊野いわ子
神田區四小川町一ノ九　友田たま子
牛込區矢來町十四　東儀ゆき子
麻布區一本松町廿四　富永せき子

ち ノ 部

麹町區永田町二ノ七　長鄕千代子

お、を ノ 部

小石川區豚町十　沖きよ子
神田區雉子町二十三　尾崎つや子
京橋區四豐多摩川岸二十五號　岡　富子
本郷區湯島新花町七十四　大澤と代子

麹町區富士見町二丁目三　太田もと子
麹町區下二番町六十九　奥田たか子
神田區錦町三ノ一　大關ちか子
本郷區東片町百三十一　大澤さく子
本郷區順天堂病院　大久保兇子
下谷區御徒町一ノ四　大森くめ子
京橋區木挽町一ノ十一　岡崎ふさ子
麻布區三軒屋町三十八　小倉すゞ子
麻布區本村町百七十四　岡崎き代子
南豐島郡千駄ケ谷村　侯爵夫人　大山捨松子
麹町區中六番町十一　小山田かち子
京橋區金六町六　越智[illegible]子
麹町區永田町二ノ十三　大島つい子
芝區神明町二十五田村氏方　奥山とし子
牛込區原町一五十七　小田川みつ子
芝區三田四丁目七　大木次子
牛込區仲町三十三　岡崎ゐし子
麻布區龍土町五十八　小田切湘の子
淺草區千束町二ノ百廿八　及川かれ子
日本橋區濱町二ノ十二南ノ九十六號　大八木幸子
麻布區宮村町一四　大島貞子
麹町區有樂町三ノ一　岡村まさ子
京橋區南八丁堀一ノ十五　岡本春子
小石川區小石川女子大學高田寮　大岡つたえ子
四谷區內藤町一　奥村ふみ子
日本橋區駿河町十　小野かれ子
芝區櫻川町二室方　岡村しげ子
神田區多町二ノ十三勝倉鎌太郎方　小野熊子
赤坂區高樹町三　大井上かね子
麹町區紀尾井町三　奥田綾野子

わノ部

渡邊よれ子　麴町區中六番町四十八
菅谷保子　麻布區網代町一、英學方
和田垣つな子　牛込區東五軒町三十五
若林かれ子　日本橋區濱町三ノ一
渡邊松子　赤坂區新坂町廿一
和田英子　本郷區西片町十、
渡邊節子　日本橋區龜島町一ノ十八
渡邊てろ子　京橋區加賀町一
渡邊かづ子　麴町區平河町六ノ二十六
渡邊仙子　牛込區大久保余丁町百九
和田いれ子　麴町區飯田町四ノ二十五
渡邊てつ子　神田區下白壁町十一

かノ部

川上やす子　麻布區東町二十四
神山まさ子　男爵夫人　麴町區富士見町六ノ二
神田德子　神田區淡路町二ノ九
加藤つる子　赤坂區青山穏田三十二
河津敏子　小石川區江戸川町十七
門野駿子　麻布區霞町一
川原鐵子　赤坂區新坂町十七
加藤きよ子　赤坂區靈南坂町十七
加藤展子　芝區高輪車町五十五
上泉ひさ子　麻布區三河臺町二十九
河村玉子　牛込區喜久井町卅六
河原久子　麴町區三番町二十
川渥時子　麻布區市兵工町一ノ十一
川地遊龜子　牛込區若松町五十九
川添はる子　芝區西久保神谷町十八
鹿島しん子　府下北豐島郡日暮里村大字金杉二一六
河野もゝよ子　神田區鈴木町二、東洋内科醫院内
金原てい子　芝區高輪南町四十七
加藤あい子　下谷區仲御徒町小學校内
柿澤たま子　牛込區新小川町一ノ十七
川島けい子　本郷區丸山福山町二十
河野正子　麴町區飯田町六ノ十二
加藤ゑん子　日本橋區川瀬石町十七
神取てう子　赤坂區青山北町五ノ四十三
川村しら子　小石川白山御殿町百二十七
鹿島磯子　京橋區木挽町九ノ三十一
神門たみ子　本郷區湯島天神町三ノ一
上庄けい子　神田區元佐久間町十二久富方

よノ部

吉原よれ子　本郷區元町一ノ六
吉田賢子　京橋區銀座三ノ二十一
米澤たか子　京橋區南鍋町二ノ五
吉原かや子　麻布區今井町三十九
與倉幹子　牛込區西大久保村四百六十
依田豐陽子　牛込區市谷町十一
米井鶴松子　麴町區内幸町一ノ三
由水つれ子　神田區美土代町一ノ十八
吉田庸子　北豐島郡日暮里村字金杉二一二
横山都子　本郷區森川町一、東北裏乙ノ九十一號
吉本きぬ子　麴町區三丁目二河村方
横矢ゆき子　麴町區三番町六十七弘光方
横内百子　牛込區赤城下町卅六
吉野椿子　牛込區新小川町一ノ五

麻布區宮村町六十七　芳川新子

たノ部

麴町區永田町二ノ七　高島つる子
本郷區四片町十、へノ十六　田口つる子
神田區北伊賀町八　田村てう子
神田區仲猿樂町一ノ七　高橋清子
神田區今川小路一ノ五　田中こう子
神田區鈴木町十二　高田てる子
京橋區木挽町一ノ十四　高山らく子
牛込區納戸町二十六　高山さき子
小石川區四原町二ノ十五　田中てる子
赤坂區青山高樹町八　立川貞子
麴町區飯田町三丁目二十　丹治春子
赤坂區青山南町六ノ八十二　武富すみ子
麻布區霞町一　玉利のぶ子
本郷區四片町十、ろノ二十四號　竹村てい子
本郷區四片町十、にノ三十九　高倉つな子
牛込區早稻田南町四十三　高木とみ子
小石川區關口臺町　高田藤子
麻布區笄町百七十　田村あき子
麻布區三軒屋町五十二　辰己富野子
麴町區中六番町二十一　田中とよ子
芝區四久保巴町七十九　玉木とよ子
本郷區湯島天神町一ノ二十四　高橋粲子
牛込區辨天町百四十七　谷森曉子
麴町區飯田町六ノ十七　高島なを子
牛込區船河原町十三　高木やす子
日本橋區本銀町四ノ九　高木こう子
牛込區市谷仲ノ町三十九比留方　竹上はる子
麴町區有樂町一ノ三中山邸内伊藤政太郎方　高橋のぶ子
淺草區聖天町六十一丹陽方　多田益子
京橋區新船松町九延次郎方　辰澤町子
赤坂區臺町六十一　竹内有樂子
神田區駿河臺袋町産科婦人科病院　玉井ちとせ子
日本橋區佐内町八鈴木久吉方　高橋みつ子
京橋區材木町三ノ十一　高岡春子
京橋區南鍋町一ノ一　田中十世子
麴町區永田町二ノ六十八　田尻くめ子
赤坂區青山南町六ノ十四　多々良とよ子
下谷區本町三ノ十九柳田方　高久はる子

そノ部

四谷區内藤新宿北裏町八十二　曾田八重子

つノ部

牛込區市谷藥王寺前町十四　土屋酉子
本郷區四片町十、いノ十一　坪井なを子
麴町區富士見町五ノ九　佃うめ子
芝區高輪南町三十　津田勝子
牛込區辨天町四ノ十四　鶴見千代子
日本橋區箔崎町三ノ二　塚原梅子
小石川區久堅町八十　塚本浪子
日本橋區通四丁目七　津村文子
日本橋區佐内町六　鶴岡ひさ子
赤坂區青山南町五ノ四十五　津田ふく子

ねノ部

下谷區茅町二ノ二十七　根岸かな子

な ノ 部

京橋區銀座四ノ十二	中村もと子
本郷區駒込千駄木林町二百二	中島たけ子
麻布區本村町百八十五	中島鉞子
牛込區辨天町六十七	南部焱子
芝區三田四國町二、一號	内藤千代子
牛込區早稲田南町八	中山樂子
牛込區市谷宮久町十六島瀬陸義樣方	中島きよ子
日本橋區新衞門町	瀧川米子
下谷區仲徒町小學校内	中村いよ子
東京巣鴨病院内	永松あい子
淺草區森田町二十	中島四津子
小石川區小日向臺町三丁目	南部きし子
麹町區九段坂下看護婦會	中尾しつえ子
麹町區元平河町八	中村久子
神田區元岩井町二十八	長本つた子
芝區四久保神谷町十八	中山良子
麹町區飯田町二丁目	中原敬子
芝區松本町四十四	南波常子
芝區愛宕町二ノ十四	中山つれ子
牛込區砂土原町三ノ三	中山よし枝子
芝區烏森町五	中澤春子

む ノ 部

日中橋區元大坂町十一	村山すえ子
小石川竹本町三十七	村山ふく子
牛込區市ヶ谷仲ノ町	村木きくゐ子
麹町區飯田町四ノ二十五	武笠美以子
神田區南甲賀町九	室賀歌子
芝區櫻川町二	室ともな子

牛込新小川町三ノ一	村上部子
日本橋區龜島町一ノ二	棟方百世子
芝區金杉新濱町一	村上部子

う ノ 部

芝區高輪南町五十七	上野楚子
麻布區三軒家町四十一	上村きよ子
京橋區釆女町三十六	浦島てい子
日本橋區通四丁目	牛山竹代子
神田區東紅梅町十三	内田すま子
麹町區三番町	子爵夫人 瓜松千代子
四谷區鮫ヶ橋南町八十八	内山訓子
京橋區銀座三丁目十九	植木ゆき子
本郷區曙町十六	内山園子
麹町區下六番町五十二	馬屋原ひさ子
牛込區赤城下町四十三	鵜飼よし子
牛込區若松町百三十七	梅津讓子
日本橋區本材木町一ノ十五	内田なか子
赤坂區青山南町五ノ四十五	内村よし子
赤坂區裏町二ノ七	梅本良子

の ノ 部

芝區紅葉館内	野邊地たき子
四谷區信濃町八	野崎わか子
小石川區巣鴨病院内	野見山たき子

く ノ 部

小石川區金富町三十五	久保田八重子
麹町區飯田町三ノ四	熊澤しま子
麻布區笄町七十九	日下部歌子

牛込東五軒町十一　久保田靜子
本郷區西片町十にノ二十七號　呉みな子
麹町區飯田町一ノ八船曳方　國友なか子
京橋區築地明石町三十一　黒澤きく子
赤坂區臺町六十三　楠田ひさ子

やノ部

芝區柴町八　山田そよ子
牛込區市谷富久町百二十六　男爵夫人　安保よれ子
麻布區霞町十七　山川二葉子
四谷區木村町三十七　山上よし子
芝區本芝三丁目十五　山岡せい子
赤坂區靈南坂町二十　山際はる子
芝區田町四ノ六　山田くめ子
日本橋區箱崎町四ノ一中島米子方　山本花子
芝區三田四國町十五　山口せき子
麹町區上二番町卅三　矢島かち子
京橋區南小田原町二ノ九　山室さの子
京橋區築地二ノ五藤田方　山本たま子
牛込區富久町百二十六　男爵夫人　安保操子
赤坂靈南坂町三十一　矢部ふさ子
芝區南佐久間町二ノ十五　矢野ふみ子
牛込區拂方町十一　山田拾子
赤坂區丹後町一、廿五號　山崎晉雄子
赤坂區新町三ノ十八　山崎しん子
本郷區駒込丸山新町二十一　保岡愛子
牛込區大久保余丁町百〇九　安村忠子
芝區櫻川町二、室方　山田もと子
赤坂區青山南町一ノ三十三　安川定子
小石川區江戸川町一　山本とめ子

まノ部

芝區三田三ノ十四　松山信子
麹町區中六番町二十七　町田ふじ子
下谷區櫻木町卅一丸茂病院內　丸茂むれ子
芝區櫻川町十　牧かれ子
赤坂區青山南町六ノ三十一　増野寧子
芝區三田一ノ二十八　伯爵夫人　松方敬子
神田區北神保町十八　馬島圀子
麻布區三軒家町二十　松崎すぎ子
本郷區向ヶ岡彌生町三　又木きく子
小石川區久堅町七十一　牧野英子
日本橋區背物町二十五　松澤安子
日本橋區新材木町十四松下岩雄方　松下つれ子
牛込區市谷仲町五十二　松浦つる子
麹町區富士見町一ノ三十　眞崎まつ子
小石川區白山御殿町百十　丸尾しげ子
神田區錦町一ノ十四　松本文子
本郷區西片町十、にノ四號　松山麻子
芝區三田綱町一、德川邸內　松野薫子
牛込區拂方町三　前田りつ子
京橋區木挽町九ノ八　前島ありか子
麻布區狸穴町十　牧野智惠子
深川區中島町五　増田乙二子
本郷區二丁目九　前島てい子
芝區金杉新濱町一　増田濱江子
赤坂區青山南町三ノ五十二　松島かれ子
四谷區荒木町二十七龜泉今方　松本育子
小石川區巣鴨病院內　増田たけ子
四谷區內藤新宿日原病院內　増田つれ子

ふノ部

麴町區飯田町一ノ八	船曳みき子
芝區小山町五	藤田朋子
麻布區材木町五十	藤岡千勢子
内藤新宿御料地内	福羽てい子
本所區柳原町三ノ廿九	藤井すゞ子
牛込區藥王寺前町八十三	古川のぶ子
本鄉區森川町一	藤井もと子
麻布笄町百二十九	福永淺子
四谷區箪笥町三十七	古田友子
麴町區一番町三十九	福島多喜子
下谷區仲徒士町小學校	藤牧ふじ子
日本橋區濱町二ノ八	藤野菊枝子
淺草區猿若町一ノ十二	福島こ登子
麴町區三年町有栖川御邸內島津定樣方	福地衣子
麴町區永田町二ノ一鍋島邸内	古川喜代子
神田區猿樂町十九	古谷鶴子
小石川區諏訪町三十六	藤澤すま子
神田區豐島町二十一	藤井千代子
麻布區飯倉森元町一ノ二十七	藤川脩子
本鄉區駒込千駄木町五十七	深井てる子

こノ部

神田區駿河臺東紅梅町十二	小峯千年代子
日本橋區和泉町三	後藤はつ子
本鄉區西片町十、はノ二十四號	近藤淳子
赤坂區青山御所皇孫殿下御假殿	兒山すみ子
本鄉區湯島四丁目十四	小林よね子
麻布區市兵衛町二ノ八十三	兒島まさ子
本鄉區湯島五ノ十順天堂病院	後藤米子
日本橋區久松町二十九	近藤いく子
麴町區五丁目二十一	小宮せん子
本鄉區根津西須賀九	駒杵みはる子
本鄉區彌生町二	後藤わか子

えノ部

麴町區下二番丁三十三	江口春子

てノ部

小石川區豐川町二十四	寺田恒子
牛込區市谷田町三ノ十九	勅使河原君惠子
牛込區市谷田町二ノ十一、余田輝方	寺本谷子

あノ部

芝區三田功運町十九	畔山操子
麴町區富士見町六ノ四	青戸咲子
京橋區南八丁堀一ノ二十八	綾井きん子
牛込區天神町七十一	青木すみ子
牛込區市谷加賀町二ノ二十	安藤さく子
麻布區東鳥居坂町十	麻生富久子
淺草區下平右衞門町二十一	和坂喜美子
京橋區南新堀町十一	天田鶴子
下谷區車坂町六十二	荒木てつ子
麴町區下六番町四十八	淺田みれ子
日本橋區材木町二ノ五	淺野てふ子
神田區錦町三ノ二大關方	朝倉ふみ子
本鄉區四丁目十三高橋方	秋谷よし子
麻布區市兵衛町一ノ一	秋山梅子
赤坂區青山高樹町十二	淺田みか子

麻布區竿町百〇九　安蘇湄子
神田區南甲賀町入原氏方　新井すみ子
麹町區三番町四十　阿久澤清子
神田區山本町六　秋本あぐ子

さノ部

芝區三田四國町二、十二號　澤邉れん子
麹町區三番丁三十二　桝實子
麻布區鳥居坂町九　實吉れん子
荏原郡大森八景坂谷口別莊　佐々木かく子
赤坂區氷川町三十八　阪本房子
本郷區駒込二百三十二　佐藤靜子
小石川區白山御殿百九　齋藤竹子
麻布區市兵衛町二ノ八十八　四郷信子
京橋區本挽町十ノ六　坂本千代子
四谷區左門町五　佐伯みつ子
芝區車町三十五　鮫島峯子
芝區四久保葺牛町二十四　佐伯すみ子
日本橋區小傳馬町一ノ二　酒井はま子
神田區表神保町十をノ二十三　齋藤ます子
本郷區四片町十、いノ十三號　坂田明子
本郷區根津宮永町三十五、齋藤政一方　櫻井みち子
本所區相生町三ノ十八　坂口くに子
麹町區內幸町一ノ五　坂本操子
本郷區天神下同明町十二　佐橋せう子
豐多摩郡千駄ヶ谷字新田八三四　佐藤貞見子
赤坂區氷川町五十二　酒井邦子
京橋區南八丁堀一ノ十一　笹生たに子
赤坂區溜池二番地四十號　櫻井かほる子

きノ部

豐多摩郡千駄ヶ谷字原宿二〇二　北代幸子
赤坂區檜町六　清岡かく子
芝區琴平町十七　木村ふみ子
府下駒場農科大學官舍　喜多山つせ子
麹町區上六番丁三十一　喜多村歌子
芝區明舟町十八　木村つる子
京橋區築地三ノ十五、安田さだ方　木村れい子
神田區駿河臺鈴木町二、石上方　北原壽子
麹町區飯田町六ノ二十二守田氏方　木部まつ子

みノ部

府下千駄ヶ谷村七百六十二　三島わか子
小石川竹早町八十二　三浦とめ子
小石川林町四十一　宮崎よし子
神田區駿河臺鈴木町二十四　三浦とき子
麹町區內幸町一ノ三　三島千代子
芝區明舟町十二　宮崎鶴子
小石川區小日向臺町二ノ九十七　澁淵駒衛子
神田區猿樂町十二　水原はる子
小石川區下富坂町十三　宮崎かれ子
日本橋區久松町二十九　宮田ちか子
赤坂區青山南町五ノ四十五、にノ十二號　溝上幸子
牛込區矢來町三、山里　宮田とく子

しノ部

神田區北神保町十三　白倉錦美枝子
牛込區南町一　島崎たけ子
赤坂區青山南町二ノ二十六　邉　みち子

麹町區下二番町七十二　鹽田てる子
麹町區富士見町二ノ四十二　侯爵夫人　四條春子
麹町區一番町二十九　白井きん子
芝區三田道新町十三　下村ちと子
芝區巴町三十四　篠原さだ子
芝區城山町九　清水とし子
京橋區南八丁堀一ノ十五　白神しげ子
赤二區青山北町五ノ四十八　柴田鶴子
小石川區白山御殿町百十　下瀬勝千代子
麹町區三番町八十　守隨き代子
下谷區西黒門町十一　金門商會　十文字こと子
本郷區駒込東片町四十二　下田鶴子
赤坂區一ツ木町五十九　志村むれ子
芝區櫻川町二　室氏方　宍戸たき子
四谷區東信濃町十　宍戸幸子

ひノ部

麹町區下二番町六十九　日高りき子
麹町區三番町六十　廣瀬りき子
牛込區加賀町二ノ二　廣井つな子
赤坂區青山南町六ノ五十一　菱田糸子
麻布區霞町一　廣澤てつ子
本郷區眞砂町三十四　平野增子
神田區松下町二十二　平山照子
牛込區市谷仲ノ町五十六　久山千代子
本郷區西片町十、ホノ十九　東くめ子

もノ部

牛込區上宮比町五　森安かた子
麻布區三軒屋町二十九　森園子

本所區綠町一ノ四十四關口方　本島鍹子
京橋區南金六町十五　森永とく子
赤坂區青山北町七ノ一　森君子
牛込區早稻田鶴卷町四百三十一　森山波子

せノ部

京橋區長崎町二ノ五小谷方　關すゞ子
本郷區西片町十、ろノ四號　關野小枝子
麹町區上六番町三十　瀬川さわ子
牛込區南榎町十五　關計無子
府下北多摩郡大久保村西大久保　千田米子

すノ部

神田區北神保町八　鈴木みち子
麹町區三年町二　菅豐子
坂區三田綱町一　杉いそ子
本郷區駒込病院內　杉本りせ子
牛込區横寺町五十八　杉山わかな子
本郷區湯島三組町八十二　杉木富納子
麻布區材木町六十三　鈴木てる子
神田區今川小路三ノ八　須藤鳳子
麻布區芝森元町一ノ十　鈴木つる子
東京帝國大學病院三浦內科新室　諏訪なみ子
麹町區永田町二ノ三十　杉山歌子
京橋區明石町三十一　鈴木豐子
本郷區千駄木町一　鈴木鈴子
深川區冬木町十　鈴木千枝子
東京帝國大學附屬醫院
本郷第一醫院　佐藤さだ子

看護婦長　代とめ子　外科看護長　村井ちか子
山田やゑ子　赤堀龍江子
第二醫院内科看護長　高野京子
第一醫院三浦内科新室　四戸いま子
第一醫院　井上つや子

地方會員ノ部

本會賛成員

栃木縣河内郡姿川村大字鶴谷五　坪山平馬
福井縣武生郡蓬萊病院　鑑田宗太郎
岡山縣御野郡大野村大字大安寺千百七十六　山川春二
京都市烏丸通上長者町角　ドクトル　佐伯理一郎
山口縣大島郡久賀町上六千五百八十二　崎村文市
新潟縣佐渡夷町　醫學士　竹中成憲
廣島市字中島本町九十一　小泉賀
兵庫縣湊町三ノ十三產科婦人科院　大島富馬太
岩手縣盛岡病院長　醫學士　川上雅量
靜岡縣濱松田町六十七　鈴木市太郎
甲府市山梨縣立病院　醫學士　武田央
秋田縣鹿角郡毛馬内町　小笠原秀治
青森縣四津輕郡鰺ヶ澤町字七ツ石町四番戸　藤田長策
千葉縣君津郡小櫃村寄俵田長谷川　根本峯吉
越後國南蒲原郡加茂町　關善三郎
新潟縣東頸城郡浦田村大字浦田十八　本山捨五郎
新潟縣南蒲原郡見附町見附病院　岡田九十九
山形縣北村山郡宮澤村大字正厳　阿部薫
埼玉縣北足立郡鳩ヶ谷町　本田千八郎

●終身會員

山形縣西村山郡新宿村　今井政の子
山形縣東置賜郡屋代村大字竹森六百二　長谷川伊勢子
大阪三軒屋町紡績會社　山辺さだ子
愛知縣春日井郡中小田井村　松澤たつ子
神奈川縣大綱山　高島くら子
大和國生駒郡法隆寺村百六十三　北島三枝子
福島縣福島町　油井なか子
仙臺市米ヶ袋中町五十五　椎　高子
埼玉縣北葛飾郡櫻田村字八甫　渡邊麗子
埼玉縣北葛飾郡幸島村大字下片田十九　山中てる子
橫濱市南太田町　荻原淑子
高知縣香美郡赤岡横町　松岡雪子
北海道渡島國福山町大字神明町廿一　松前藤子
兵庫縣武庫郡御影町内ノ郡家一三六字寺前　中村久良子
清國廈門　直哉夫人　愛久澤僩子

●特別會員

北海道函館惠比須町四　藤野くら子
愛知縣渥美郡豐橋町指笠町卅五　飯田たづ子
府下日暮里元金杉百九十二　片岡敏子
岡山縣兒島郡味野村千六百七十二　野崎隆子
北豐島郡瀧ノ川村字二本榎　緒葛節子
新潟縣中頸城郡高田高田女學校　藤井部子
岩手縣盛岡病院内　川上きん子
府下豐多摩郡落合村大字落合　近衛公爵母堂　近衛もと子
廣島縣江田島兵學校官舍甲一號　宮岡ふみ子
橫濱市元濱町一ノ一　渡邊たま子
千葉縣東葛飾郡市川町字市川新田四　本間よし子

大阪市北區網島町　藤田富子
府下莊原郡大崎村上大崎三百二十一　渡邊妙子
大阪市北區北區天滿橋通三丁目十番邸　石田裕子
甲府市山梨縣立病院　淺田とみ子
秋田縣小坂鑛山病院內　佐々木きぬ子
秋田縣小坂鑛山分院內　河野りつ子
福岡縣築紫區警固村藥院原町　加藤雛子

通常會員

いノ部

豐後國大分荷揚町百十四　大塚ゑみ子
岡山市内山下字石山十　伊藤緻子
廣島縣尾道市久保町　岩佐富喜榮
伊豫國別子銅山住友病院　岩村玉子
府下豐多摩郡大久保百人町二百十二　飯田和香子
相模大磯別莊　侯爵夫人　伊藤梅子
山形縣酒田出町十一　家坂みよの子
奈良市東寺林町十八　磯田梅代子
仙臺市新坂通リ四十八　岩田きく子
廣島市吉島官舍　五十嵐安子
山口縣立山口高等女學校寄宿舍　井上はるゑ子
羽後國秋田市龜ノ町東土手町三　石田岩子
伊豆國熱海町坂町　和泉なか子
愛媛縣松山市柳井町六十三　伊藤ちよう子
京都市東竹屋町川端東二入　井上しづ子
埼玉縣浦和町六十五　飯尾たつ子
長野市石堂町百七十六　石川喜美子
長野縣下伊那郡飯田箕瀬町　井上ぎん子
北海道天鹽國增毛町大字阿分村阿分病院　池田かつ子
埼玉縣埼玉郡越ヶ谷町四千五百八　池畑いく子

ろノ部

靜岡縣富士郡今泉村今泉　六所とく子

はノ部

横濱市南太田町二千百二十三　服部とき子
山形縣東村山郡天童町三日町志田病院內　林正子
廣島市尾道町西田病院　林久満子
大阪市東區平野町四ノ九十一　波多野菜津子
熊本縣熊本市河原町二十五　橋本多久子
府下荏原郡目黒ビール會社構內　橋本武津子
清國北京公使館內　服部繁子
岩代國信夫郡飯坂町字橋町十九　半田よし子
山形縣山形市旅籠町四百八十四　服部さき子
香川縣仲多度郡筆岡村字中村　伴よし子
山口縣豐浦郡長府村大字河端二一三四　橋本良尾子
佐世保市中通免六百九十八ノ第一　芳賀喜多子
兵庫縣津名郡郡家村四百廿七　春海喜佐子
尾張國西春日井郡清洲町甲五十三　林とう子
長野縣下伊那郡上飯田村百六十八　峰谷せん子
神戸市中山手通五ノ二十一　埴原てい子
臺灣阿猴廳警務課宿舍　原口まつ子
清國遼陽野戰鐵道遼陽車輛事務所　服部錦子

にノ部

北豐島郡巣鴨村字上駒込一四六　庭井靜子
清國安奉鐵道班沙河鎮工場掛　西村なを子
日高國浦川支廳第一號官舍　西久子
横濱市神奈川青木元町高木山　丹羽貴子

佐賀縣西松浦郡有田町五七四　西岡安子
廣島縣安藝郡府中村　二宮政野子
清國漢口大冶鐵山　西澤好子
筑前國鞍手郡勝野村四部古河鑛業所　西崎幸子
山形縣酒田本町四丁目　西田なか代子
橫濱市宮崎町六十二　西村喜勢子
神奈川縣大磯町字磯町　西知惠子

ほ ノ 部

韓國京城南署笠井內四十二統十二戶　朴華子
長野縣埴科郡松代有樂町　堀雪野子
京都市土手町通竹屋町　細木とみ子
北海道小樽區稻穗町二十三　本間れん子

と ノ 部

北海道石狩國空知郡歌志內村空知炭坑　戶川歌子
韓國釜山京釜鐵道社宅廿二號　富田たま子
府下豐多摩郡中野町大字仲ノ千古前三千二　戶塚てつ子
廣島市上流川廣島高等女學校　友近里子
相州鎌倉大町十九　等々力歌子
南多摩郡八王子町本町四十六　富澤れん子
岩手縣盛岡市內丸裁判所官舍　戶田たき子
埼玉縣南埼玉郡八條村字大曾根七七　豐田信子
神戶市楠町四ノ四丁　飛石桑子
東京府下小笠原島母島沖村　篤志看護婦人會

ち ノ 部

北海道根室國根室港松本町官舍　千葉あや子

を ノ 部

大阪府下泉州濱寺公園內　岡田みす子
長野縣下伊那郡飯田町　小澤愼子
長崎縣西彼杵郡高島炭坑社宅　大木琢子
大阪市西區江ノ子島官舍　大村やす子
廣島市竹屋村四百五十四　奧平一子
大阪市東區本町一ノ四　大澤ゆき子
千葉縣市川町五百四十八　大迫隆子
府下豐多摩郡大久保百人町二五四　荻原五百枝子
府下北品川御殿山七三三　小田切桂子
廣市島大手町四ノ六　岡數子
大阪市北區菅原六十四　小野文子
伊豆國三宅島神着村廿五　小野すゞ子
南多摩郡八王寺町八日一　大谷うた子
佐賀縣西松浦郡伊万里今町　沖田あい子
佐世保市永尾第一號　大舘きみ子
沖繩縣那覇區字東一五二九　岡本よう子
府下八王寺町八日六十六　大野みち子
上野國碓氷郡里見村大字上里見村廿八　岡田せい子
陸奧國二戶郡淨法寺村十五　小田島豐子
新潟縣北蒲原郡松浦村大字荒川　大沼志計子
十勝國帶廣町字西二條通四丁目　大井上よれゑ子
福岡縣福岡市須崎裏町　大森ふみ子
鹿兒島縣肝屬郡佐多村大泊　大津ゆり子
愛媛縣松山病院內　岡本友代子
韓國仁川港日本居留地公立幼稚園內　太田ため子
千葉縣東葛飾郡野田町大字上花輪七百七　大塚さく子
北海道札幌區大通西六ノ十　大澤すゑ子
福岡縣久留米市外櫛原　渡邊正能子

神戸市山本通五ノ七十九	和久山きそ子
熊本縣熊本市比丘尼町二十	渡邊千賀子
岩代國河沼郡野澤村	渡邊同子
北海道函館會所町八	渡邊夏子

か ノ 部

山梨縣東八代郡石和仲町二百九	
千葉縣安房郡保田町	鹿兒島きく子
神戸市葺合町字熊内二〇八九	川名茂登子
群馬縣高崎市龍見町九十四	勝田久米子
府下荏原郡大崎村大字上大崎今里八百五	勝田久理子
秋田縣鹿角郡毛馬内町	河井里代子
高松市七番町十八	勝又ひさ子
栃木縣芳賀郡茂木町二百	河村季子
長野縣東筑摩郡松本町六十六	片岡ちか子
千葉縣安房郡岩井村竹内一三八	上條鈴子
府下荏原郡大井村三千六字鹿島谷	川崎ゆき子
南多摩郡八王寺町十七	粕谷たけ子
千葉縣長生郡茂原町早野新田	神尾きい子
靜岡縣富士郡岩松村岩本	加藤彌壽子
北海道小樽區日本銀行支店	影山谷子
廣島市上流川高等女學校	龜川輝子
韓國仁川港日本領事館	笠秋子
兵庫縣多紀郡岡野村ノ内西岡屋村二十二	加藤直枝子
愛媛縣新居郡新居濱磯浦	梶原もと子
臺灣台南回春病院内	梶浦信子
千葉縣茂原町長谷	川田あや子
鳥取市栗谷四十二平田方	加藤もと子
靜岡縣靜岡市呉服町四ノ十三近藤伊作方	河本梅野子
小倉市米町百二十一	加藤いと子
	金竹まさ子

長野縣東筑摩郡松本町土井尻八七六	唐澤好子
廣島縣吳海軍工廠	風間明子

よ ノ 部

長野縣東筑摩郡島立村大庭百八十五	横内いわ子
岡山市大道町三友寺内	吉富絹子
筑前國嘉穗郡大谷村古河増頭炭坑	横倉然子
福井縣敦賀町津内三六十五號二百番ノ一山田瓦水方	吉武あい子
山口縣吉敷郡吉敷村	吉山すま子
河内國富田林町東林町十九	米原とき子
筑前國若松町大字修多羅山手通二丁目住友社宅	吉川香小枝子
岡山縣兒島郡鴻村大字上村二二八三	横山豐子
大連市野戰鐵道堤理部官舍	吉野伸子
秋田縣鹿角郡大湯村	吉田とし子
廣島縣比婆郡東城町字備中町	横木民子
長野縣東筑摩郡島立村字堀米	吉澤とみ代子

た ノ 部

秋田縣鹿角郡小坂鑛山	田中かま子
臺灣臺北西門街二丁目六十四、糖務局官舍	田村ませ子
韓國元山理事館内	武田かれ子
神奈川縣小田原十字町四ノ八八七	俵つれ子
岩手縣盛岡高等農林學校	玉利わか子
佐賀縣佐賀郡神野村多布施八十六	立野睦子
大阪市外海老江村七九	瀧川みち子
臺灣三叉河大倉土木組出張所	田原その子
愛知縣丹羽郡高雄村百五十七	高木英子
志摩國志摩郡波切村藤兵衛方	高橋いとの子
岩手縣稗貫郡花巻川口町五五三	高橋只志子
姫路市北條口八十八	田中直子

大阪市東區伏見町二ノ一　谷政子
大阪市東區伏見町二ノ四十九　谷艮子
福岡市下土居町二十六　武内つれ子
府下南多摩郡八王子町大横三　田野倉こと子
山形縣北村山郡大高根村　高木智江子
府下荏原郡大森町四四二　高城艶子
埼玉縣浦和町四百三十五　田中こう子
埼玉縣浦和町高橋代議士御内　高橋ふみ子
高知市中島町二百九十　武川と容子
伊豫國松山市港町四ノ三十六　高田直子
長崎縣南高來郡島原村六三四　田浦龜子
秋田縣鹿角郡大湯村　谷地なか子
韓國京城竹洞赤門前　高橋ゆう子
青森縣三戸郡三戸町　田島つや子
埼玉縣南埼玉郡越ヶ谷町　田中謠子

そノ部

和歌山縣師範學校女子部　曾野菊江子

つノ部

兵庫縣姫路市五軒邸八十七　土肥もと子
相州小田原十字町四丁目竹添方　堤藤子
相州小田原万年町四丁目辻村甚助方　辻村かれ子
神戸市北長狹通り三ノ四十一　堤吉子
京都市上京區東入三本丸太町上ル　土屋春子

ねノ部

長野縣上水内郡三水村　禰津せい子

なノ部

臺灣臺北西門街二丁目臺灣銀行内　長尾せい子
大阪市南區天王寺悲田院町三八四七　小橋ゑつ子
相州横須賀東港豐島町中里一四二　小澁辰子
北海[illegible][illegible]郡町大字渡島町稅務署官舍　中根いれ子
南豐島郡澁谷村元中澁谷四十　長森ひて子
鎌倉長谷吉田別宅　小濱千代子
埼玉縣大里郡吉見村　長島ひさ子
清國上海兆豐路二十八　長門久慈子
甲府市綠町四十　内藤喜千瀬子
京都市富小路夷川上　中江あし子
山口縣佐波郡三田尻毛利家邸内　長井良子
秋田縣鹿角郡毛馬内町　中津山きよ子
靜岡縣榛原郡相良町須々木　名波なを子
佐賀縣立佐賀高等女學校内　永淵政清子
山梨縣東八代郡豐富村大字木原　中澤久野子
長野縣長野市大門町五　中島妙子
肥前國佐世保市木場田町　楢崎竹子
長野縣長野市狐池四十九　習田文子
府下北品川百五十四　南條榮子
兵庫縣揖保郡龍野町ノ内日山村　中原百合子
和歌山縣西牟婁郡田邊町字榮町南新町　那須よし枝子
岐阜縣岐阜市上竹町松野六太郎氏方　長尾愛子
大和國添上郡帶解村大字池田第一番邸　内藤多榮子

むノ部

肥前國佐世保市永尾八百四十五　向山靜子
新潟縣刈羽郡岡野町　村山珠雄子
北海道札幌郡苗穗村九　撫養きさ子

甲府市櫻町六十六　村松信子
水戸市下市白銀町　室伏清子
相州平塚停車場南　村井たか子
大分縣大分町字下市　村上重見子
神奈川縣程ヶ谷東京ビール會社々宅　村田香子

う ノ 部

相州三浦郡逗子九百七十一　内田芳子
山口縣豊浦郡長府村江下　植村妙子
和歌山市久保町四丁目水野國次郎氏方　上野延子
愛媛縣松山市南歩行町廿六　漆原せい子
越後國中魚沼郡鹿ヶ崎村大字谷内　内山恭子
靜岡市四草深町百四十　海野つぎ子
青森縣三戸郡八戸町字八幡町　植村みわ子
伊豫國松山市二番丁い之五號　宇都宮五十鈴子

の ノ 部

高知市鷹匠町二　野並三種子
姫路市神谷大神町黒坂方　乃木千世子
府下南足立郡北千住町機組社宅二號　野口孝子
大阪市南區天王寺上ノ宮町五三四八　野口眞子
岐阜縣本巣郡四郷村網郷　野々村多賀子
北海道函館區龜田村字村内九十一　野田ふく子

く ノ 部

神戸市山本通四ノ百一　桑原野子
埼玉縣浦和裁判所官舍　黒田啓子
長野縣下高井郡中野町字横町　黒岩ぬい子
信州飯田伊賀良村中村　久保田ぶん子
長野縣長野市高等女學校寄宿舍　黒岩貞子
山口縣山口町糸米小路一九七　黒部きよ子
高知市中島町二七　黒岩兎志子
山梨縣北都留郡富濱村二六九　黒部はな子
秋田縣鹿角郡大湯村　波川れつ子
府下北多摩郡戸塚村字源兵工向原　栗田さだ子

や ノ 部

千葉縣安房郡鴨川町　安田こう子
北米合衆國シカゴ市レキシントン街五四八九　山口雪子
山口縣豊浦郡岡枝村字茶屋川永富茂助方　安岡常子
大坂市中ノ島玉江町一ノ十二　安永菊子
大分縣大分郡大分町百二十三　安田鶴子
臺灣臺北大稻埕六館街一ノ二十二　山田よね子
愛媛縣松山市大字辨天町ロノ一番戸　矢能以諾子
島根縣簸川郡稗原村　山根操子
埼玉縣入間郡坂戸町十七　柳澤りう子
長崎市三菱造船所八軒屋社宅　山田小里子
濟南市歡後街百十七　山本兎嵩子
愛媛縣越知郡今治町米屋町二丁目　矢野德代子
北海道札幌區北三條西十二丁目一　柳楢とや子
靜岡縣庵原郡興津町清見寺　山梨識子
府下大森八景坂上　山口節子
横濱市山手町百二十　山下春江子
靜岡市四草深町二百六十四　矢口喜久代子
鳥取縣西伯郡米子町大字灘町二丁目　安田富美子

ま ノ 部

筑前國嘉穂郡笠松村鯰田炭坑　松田すゑ子
長崎市引地町十八　毎熊かめ子
神戸市下山手通六ノ百六十三　前川てる子

仙臺市東四番丁十八　松浦多喜子
茨城縣猿島郡古河町石町　丸山よし子
門司市小丸山千十九郵船會社々宅　松田順子
名古屋市武平町二ノ百三十新道　松田眞都子
三重縣三重郡羽津村羽津病院內　牧村清子
越中國新川郡泊町松吉氏方　松田よし子
府下南多摩郡八王子町本町五十七　松波すゑ子
鹿兒島縣始良郡加治木村反土川上チカ方　松本友代子
清國天津日本租界宮島街　眞水定子
豐多摩郡大久保村大字西大久保四四七　前田とよ子
神戸市中山手通六ノ十六　松方龜子
青森縣三戸郡三戸町字六日町十六　松尾うめ子
茨城縣眞壁郡下館町五百　間々田とよ子
伊勢國一志郡川口村二八五　眞柄みれ子
岐阜縣安八郡結村大字東結　馬淵秀子
大阪市北區此花町二ノ三百五十　松本かつ子
靜岡縣富士郡加島村平垣　松永くに子
福島縣石城郡泉村字泉十六　松下眞子
青森縣三戸郡三戸町　松尾かれ子
青森縣三戸郡三戸町　松尾つれ子
相州鎌倉長谷二九三　松波好子

ふノ部

北海道函館船見町五十八　深瀬たか子
清國天津佛租界古城梅溪方　古城貞子
青森縣三戸郡八石町大字上徒士町十四　福田よれ子
新潟縣新潟市上大川前通十番町六　藤田りた子
大阪市北區堂島濱通四ノ十八　深澤ふく子
相州鎌倉大町原二百九十三　福島鶴子
愛知縣愛知郡熱田町東熱田　深田幸子
亞米利加桑港ピタラー街百二十三　藤田さだ子
清國上海文路四十號　深野英子
大阪市北區宗是町四十二　藤村章子
廣島縣吳市港和庄町字清水上通一五三　藤本竹土子

こノ部

臺灣陸軍經理部澎湖出張所宿舍　郡山やへ子
靜岡縣榛原郡勝間田村靜谷　駒形元子
長野縣南安曇郡穗高町保全堂病院內　小林靜子
群馬縣碓氷郡里見村大字下里見村二十三　木暮と勢子
甲府市富士川町七　權太きん子
甲府市錦町八十四　小林ひろ子
兵庫縣養父郡伊佐村ノ內伊佐村五十八　小出柃子
大阪市北區若松町官舍　國分擧子
高知市帶屋町　高知病院
長野縣更級郡四寺尾村德太郎氏方　五明はや子

ゑ、えノ部

北豐島郡王子村千三百三十一　遠藤いれ子
相州鎌倉坂ノ下字入地　江口糸子

あノ部

福島縣福島町字上町十三　荒川梅子
朝鮮釜山西町二丁目一福亭前　淺海寧子
府下八王子町八木町八　朝倉縫子
廣島縣吳市東本通一ノ二十八　天野知惠子
愛媛縣松山市北京町　淺井ひで子
兵庫縣丹波國氷上郡幽領村　足立まつ乃子

さノ部

福岡縣嘉穂郡熊田村下山田炭坑　佐藤澄子
埼玉縣南埼玉郡越ヶ谷町二十八　堺まつ子
神奈川縣中郡南秦野村字尾尻　笹子かれ子
府下荏原郡目黒村大字上目黒二九八　四郷清子
長野縣上田町常田町　佐藤たま子
甲府市百石町六十九　匂坂きく子
奈良市角振町四十一　澤とよ子
佐賀縣東松浦郡湊村字相賀　寒水たみ子
肥後國大村伊勢町二百八十一　佐土原いれ子

きノ部

和歌山縣海草郡内海村大字鳥居　木村八百代子
門司市丸山帝國商業銀行社宅　北田稲子
千葉縣茂原町高師　菊地とみ子
大阪市南區天王寺師範學校前　岸松子
新潟縣中蒲原郡龜田町大字城所皆川謙四郎方　清州富子

ゆノ部

鹿兒島市荒田町五百五十三　湯地たれ子
相州鎌倉小町四二七　湯地照子
宮城縣伊具郡角田町　湯村きく子

みノ部

群馬縣山田郡桐生町四丁目泰町關根千代方　箕輪なつ子
筑前國嘉穂郡笠松村鯰田炭坑社宅　三浦こま子
長崎市西山五九　美島富子
横濱市北方町五百五十五　箕輪不二子
相州藤澤大坂町　三留織江子
臺灣臺北府後街民政部官舍よ號　宮本定子
府下南多摩郡八王寺町大横七十二　宮崎あさ子
新潟縣刈羽郡柏崎下新田町宮川久平内　宮川芳子
岩手縣盛岡市内丸三十四　三田さめ子
愛媛縣温泉郡雄郡村字藤原油紙製造所内　宮脇ちよう子
福島市助任村七三六　三松しげ子
北海道札幌區北一條西六丁目一　宮島梅子

しノ部

栃木縣下都賀郡栃木町　白澤彌興司子
兵庫縣神戸市兵庫羽坂通三ノ二松本發信氏方　清水すみえ子
鹿兒島市春日町卅二　島津治子
岐阜縣山縣郡保戸島村側島　篠田しづえ子
神奈川縣三浦郡葉山村堀ノ内　白岩艶子
肥前國東彼杵郡西大村五百三十五　澁谷伊勢子
大阪市北區上福島北二丁目二三一九　白藤りく子
福井縣敦賀町松榮　紫田よし子
青森縣上北郡野邊地町山田醫院　清水忠子
日向國西臼杵郡三田井町　神殿と那子
静岡縣富士郡柚野村　篠原美代子
甲府市八日町　清水ます子
府下荏原郡大崎村字上大崎五五六　島清子

ひノ部

横濱市戸部二丁目産婆柴齋檢方　菱田ゑい子
京都下鴨村四十四　久原あき子
大分縣中津町金谷　平山ひさ子
静岡縣女子師範學校内　平林たみ子
長野縣千歳町乙三十三内二番　平塚いし子
布哇國マウイ島プウネネ樋口貫方　樋口つや子

北海道函館港海岸町一　蛯子那珂子
長崎縣西彼杵郡高濱村百六十　弘生二井子
越中國伏木町日本郵船會社々宅　久鎗喜代子
長野縣立高等女學校內　平山勲子
大分縣立大分高等女學校內　廣瀬敏子
大分縣速見郡日出町字三ノ丸　久持みれ子
埼玉縣浦和町四百三十八　平野常子
相州鎌倉御用邸側　平田久子
廣島市上流川廣島高等女學校　菱沼小夏子

もノ部

府下八王子町大横町二十四　杢代こま子
長崎縣南高來郡神代村　母里さち子

せノ部

京都市上京區油小路椹木町上ル　仙田花子
山口縣豐浦郡岡枝村荒小田町山田醫院內　關野秀子
神奈川縣鎌倉字長谷四二一　迫水吉子
豐多摩郡千駄ヶ谷村五六三　仙波佐嘉子

すノ部

韓國京城旭町一丁目　鈴木嵩ゞ子
山形縣酒田町上臺町鈴木商店內　鈴木よし子
清國牽天正金銀行支店　杉原昌子
佐賀縣東松浦郡相知村三菱合資會社相知炭坑　杉本千世子
府下南葛飾郡龜戸三九〇一　鈴木起代子
美濃國安八郡墨戸町　杉山千代子
山口縣山口町字白石　諏訪幾久子
秋田縣鹿角郡大湯村　諏訪みよ子
佐賀縣佐賀市松原町馬責馬場十八野田氏方　菅野露子

新潟支會々員名簿

講師

顧問

醫學士　池原康造
長谷川一詮
各務方一
醫學士　工藤秀一郎
荒川柳軒
醫學博士　澤田敬義

高橋病院長　醫學士　高橋辰五郎
醫學士　長谷川寛治
醫學士　若杉喜三郎
長井千尋
黒岩福三郎
醫學士　澁川正男

●役員

會長　竹山れつ子
副會長　關やゑ子
幹事　中村しげ子
同　澁川たま子
同　清水くり子
評議員　小柴きく子
全　若杉きく子
全　籠宮かう子
全　梅木しづ子
全　坂本いち子
全　八木ゑい子
全　高橋なみ子

幹事　古閑はつせ子
同　高橋たゞ子
評議員　渡邊くら子
全　加藤かう子
全　宮村きよ子
全　荒川てい子
全　澤田いつ子
全　富しん子
全　田中まち子

●終身會員

鍵富せつ子
鈴木さだ子

鍵富かう子

古閑はつせ子

●特別會員

中村しげ子
志水はま子
家坂りよう子
高橋末子
黒岩松江子
坂本いち子
吉田きん子
高橋なみ子
高橋たゞ子
坂口あさ子
高橋さだ子
佐藤みち子
若杉きく子
入木ゑい子
關やゑ子
長谷川やす子
池田よれ子
山口きよ子
笹川きし子

長澤こう子
清水なみ子
野田きよ子
清水くり子
小柴さく子
瀧川たま子
前川菊の枝子
田村みち子
池原つぐ子
新開かい子
齊藤かう子
櫻井うめ子
鍵富とき子
江部さだ子
鈴木とめ子
長谷川うた子
笹川すゞ子
柄澤はぎ子

齋藤らく子
齋藤あい子
江口みつ子
保倉ちよ子
安藤かうの子
松野なほ子
森田なほ子
松木みき枝子
吉井さく子
長谷川じゆん子
荒川てい子
布川ます子
竹山れつ子
澤田いつ子
加藤かう子
笹村えい子
谷　みつ子
市島じゆん子

●通常會員

岩淵せい子
梅木しづ子
高田せん子

吉村きよ子
若松よし子
松井ふて子

中村きん子
渡邊くら子
篠原きし子

内田はろ子
吉澤とり子
田中まち子
工藤せい子
和田ゆき子
金谷とや子
館　れい子
志賀ちふ子
中山とう子
齋藤きい子
鏡淵りう子
本山かれ子
河田きみ子
金井やす子
小林うめの子
森山きく子
早福とし子
佐々しげ子
林　初子

中野せき子
行方いき子
長井さと子
阿部きく子
木野井ゆきの子
佐藤しん子
鍋倉きな子
白勢はな子
會津やす子
近藤よれ子
大島しづ子
宮原こと子
竹内かう子
宮坂とさ子
石崎たせ子
藤井かう子
中村うめ子
須田ひさ子
岡上ふく子

丹羽みす子
金井そめ子
齋藤たま子
清水とよ子
大港いし子
齋藤きく子
大橋とし子
村山のぶ子
青山つれ子
木下てつ子
澤邊すみ子
竹内たけ子
倉田きく子
小黒はつ子
齋藤せき子
遠藤なを子
清水りやう子
伊藤よし子

●地方の部

本間なか子
廣川れん子
河上ふさ子
荒井　榮子
笠原すゑ子

都築すか子
棉　よい子
和田くに子
大岡きし子
町田こと子

山田さく子
淵井じゆ子
田代てふ子
小布施すみ子
石崎はつ子

●甲之部

花輪しげ子
味方しお子

岩永ひさ子
吉田かれ子

味方はさ子
柄澤より子

篠原まさ子　中田てい子　高山さち子
石橋きし子　長谷川せん子　涌井とよ子
卯むれ子

乙之部

中村千代子　尾原きく子　高田つる子
眞部のぶ子　外山やゑ子　平野くめ子
佐藤すみ子　小林せい子　遠藤みい子
佐藤たか子　山森ます子　柴澤みき子

●學生之部

佐野一枝子

山形支會々員姓名

贊成員講師（順次不同）

法學士　中原貞衛　醫學得業士　佐々木春策
醫學士　友田保登　醫學得業士　細谷眞全
醫學士　北島小太郎　醫學士　阿野鶴三郎
稻岡美賀雄　西野愼一　音山金五郎
加藤三郎治　津田元德　遠山矢十
齋藤彌三郎　高橋健治　滿尾鎌太郎
高橋榮次郎　堀義太郎

役員

會長　馬淵よし子
副會長　岩本しげ子
幹事　佐柳千代子　幹事　館つね子
同　高木孝子　同　西野きぬ子
同　津田通子　同　佐藤たみ子
同　關原かめい子　同　紺野さだ子
同　林ちせ子　同　友田ため子
評議員　關根たか子　評議員　國井よしな子
同　村井こと子　同　古閑こと子
同　秋田こはま子　同　亥角みち子

●特別會員

中原きえ子　關根たか子　西野きぬ子
岩本しげ子　津田通子　馬淵よし子
佐柳千代子　亥角みち子　櫻田こはま子
古閑こと子　村井こと子　佐藤たみ子
友田ため子　瀬川まさ子

●通常會員

後藤まき子　國井よしな子　畔柳きぬ子
菅井ひさ子　大森まつ子　横山ちよ子
佐藤ふみ子　橋口さだ子　澁尾まさ子
國井さだ子　平吹みな子　山岸きみ子
鈴木ます子　紺野さだ子　高橋やよ子
音山きち子　高宮あと子　遠山もと子
細谷わか子　中村やよ子　工藤せい子
堀口きん子　根森ゑい子　佐治とよ子
松村いく子　中村まつよ子　林ちせ子
佐々木まさ子　佐藤ゑん子　鈴木みて子
長谷川ゆう子　長谷川こと子　三洲しげ子
井上けさ子　高島こと子　本多もと子
關原かめゐ子　伊藤たま子　勝野せい子

西村とわ子
染谷なか子
徳田ゆう子
安井ふく子
加藤きん子
佐々木やな子
古川とま子
片山かつ子
三浦まさ子
石岡いち子
館すれ子
牧野すき子
鈴木せい子
庄司いつ子
三井のよ子
宮澤いな子
高木孝子
野々村八重子

宇都宮支會々員姓名

講師贊成員

宇都宮病院長醫學士 柴田長道
小兒科 中里福次郎
神野病院長 神野勇三郎
醫學得業士 渡孚貞
共立病院長 吉永峯九郎
耳鼻咽喉科 長野榮藏

役員

會長 中山笑子
副會長 柴田靜子
幹事 福井よし子
幹事 行森やすじ子
同 須賀ゑい子
同 石田つね子
評議員 安井よしの子　何井やす子　高崎うた子
同 高崎うた子　笠原常子　中山きく子
同 菊池より子　古口とみ子　植松ゑい子
同 神野まつ子　望月とく子　小山もと子
同 長野じゆん子　江田せい子　岡ゑつ子
同 深野咲尾子　大橋のぶ子　神谷しか子
同 矢島れん子

●特別會員

中山笑子
向井やす子
中山きく子
植松ゑい子
矢板はま子
柴田靜子
高崎うた子
菊池より子
神野まつ子
高津つれ子
安井よしの子
笠原小常子
古口とみ子
望月とく子
水野しげ子

●通常會員

小山かと子
岡ゑつ子
神谷しか子
行森やすじ子
石原みわ子
山内とく子
田邊いよ子
鈴木政子
飯塚せい子
寺師さだ子
高橋みつ子
渡邊みつ子
大和さと子
田野邊ふじ子
小西たつ子
山井くま子
吉住ため子
輕部千代子
宮田よし子
岳永せい子
保坂らく子
長野じゆん子
深野咲尾子
矢島れん子
須賀ゑい子
佐藤みち子
内藤まつゑ子
安西ひて子
佐藤みた子
五十嵐けい子
峯村みと子
青柳きと子
森ます子
桂幸子
鈴木かめ子
佐藤くめ子
黒須はる子
矢野ます子
小川けん子
藤山てい子
福田つれ子
藤澤みな子
江田せい子
大橋のぶ子
福井よし子
石田すれ子
水野とし子
中津川橋子
堀内くに子
宇津くめ子
半田かつ子
府瀬てふ子
長谷川千代子
金田かん子
加藤まつ子
鈴本まつゑ子
花輪みます子
片柳あい子
稲葉さだ子
内田しげ子
小林うた子
小川たま子
須田のぶ子

栗田かつ子
小川まつ子
藤澤きみ子
中山みち子
本多さと子
手塚うめ子
内藤てるの子
小川のぶ子
小森つれ子
桑川やい子
手塚よし子
關口せん子
久保ため子
田野きく子
小林きん子
大久保つる子
大塚しん子
中島しづ子
阿久津みよ子
佐藤とくゑ子
棚　勝子
田中。幸子
千田仁和の子
長谷川さく子
篠原たけ子
平塚とみ子
渡邊あさ子
鳥居くに子
小野しげ子
馬場きく子

中西たちゑ子
藤田しづ子
廣澤まつ子
中里やす子
渡邊けい子
渡邊吉代子
福井むら子
後藤むれ子
伴野さく子
赤羽とく子
黒川たま子
石原はる子
大羽ふさ子
上野かれ子
熊谷きくゑ子
松沼たけ子
中村ふさ子
赤坂みつ子
長尾しづ子
柿原きよ子
篠崎あい子
有賀とみ子
内田しき子
菅谷たま子
渡邊きん子
島田よし子
阿久津きん子
勝本てう子
女川とき子
菊地みつ子

青羽とし子
中村あさ子
日下部さだ子
星　みを子
篠崎わ幾子
佐久間やす子
鈴木たよ子
辻　はる子
松本とう子
江原きん子
佐久間みの子
早川しか子
増田ちよ子
尾島はく子
秋葉つる子
寺島しげ子
中村やす子
黒川しげ子
手塚岩の子
松原まさ子
大竹ちやう子
大久保長子
小林あき子
大島ちか子
菊池きくへ子
渦池きぬ子
小平ふさ子
楢原みよ子
松板きよ子
小松はつ子

木下やつ子
福田てう子
田中せき子
黒川つれ子
須賀せん子
佐藤はな子
齋藤しん子
山口ひさ子
知久くに子
柳田きん子
鈴木さく子
福山やう子
丸田たき子
笹生はな子
遠藤きみ子
上野たみ子
田中すみ子

石井いし子
石塚とく子
田中てる子
菅又まつ子
栗本ゆき子
立岩わか子
戸田富久子
村山しん子
篠原きみ子
梅村あき子
福田たつ子
青木しか子
松島とめ子
田村きく子
笠井けい子
本多よれ子

黒崎はつ子
増淵なみ子
原　すか子
鈴木なか子
鈴木みつ子
和田あい子
篠崎やす子
渡きんじ子
川島もと子
加藤きく子
齋藤さく子
柴田その子
望月ふさ子
佐々木峯子
倉田むめ子
渡邊みと子

●支部會員

山瀬きん子
武田はる子
鈴木いふ子
龜山うめ子
杉田こと子
雨宮千代子
西村けん子

●地方通常會員

山口きよ子
加藤いと子
猪股なつ子
町田まち子
唐木りう子
柴野かつ子
田村みほ子
武居つる子
宇津のぶ子
久保すみ子
和田ふく子
阿部てい子

●茨城支會々員姓名

贊成員及講師

醫學士 波多野惇　秋元洗二　猿田洗太　山方八十太郎　山縣直藏

小林元茂　木田平太郎　堤孝三郎　久保田悌

村田博　三澤衛　神永誠　山田玄弘　關行敏

●役員

會長　缺員

副會長　豊田芙雄子

幹事　大井すゞ子　矢田てつ子

同　酒泉たき子　柳いち子

同　松平ふく子　檜山やす子

●終身會員

加納はま子

●通常會員

寺原松子　内林ふち子　桑原なを子　酒泉たき子　榎なみ子　關谷とく子　小野花子

豊田芙雄子　長谷川りう子　波多野もと子　田口まさ子　鴻池りう子　小澤はる子　宇佐美すゑ子

本間てい子　坂垣くめ子　指宿ひろ子　小室よし子　龍岡くに子　小田梅野子　朝倉のぶ子

大森順子　藤本せん子　藤尾よしゑ子　藤田よし子　鵜飼たけ子　鎌田なつ子　大岡やゑ子　高西もと子　片岡はる子　長尾ちやう子　下山はる子　安藤とら子　岡田くに子　深津まつ子　根木龍司子　島嶋とく子

檜山やす子　山本せつ子　島田りう子　平川うめ子　岡部さと子　榊いち子　小幡文代子　松村いく子　郷原ひわ子　西原仁子　谷たけ子　常井ちか子　西久保みさ子　岡部たま子　水原きん子

大高つる子　三宅てつ子　吉野ふゆ子　田村きく子　山口あい子　柳橋はる子　稲山とき子　倉田すゑ子　井手のぶ子　鈴木かつ子　濟つた子　松平ふく子　柘植あき子　淺沼てい子　高橋ふみ子

●尚他の各支會姓名は紙數に限りあるを以て次號に掲載可致候也

●姓名表中誤謬も有之候へは乍御手數御一報被下度奉願候也

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可らず之を望まんとするには必や衛生と相俟ちて而る後始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に陳じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會するを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本會事務所に申込む者とす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一月金三十錢以上會員は一月拾五錢を納むるを●男子にして本支會の趣旨を贊成する通常者は之を贊成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くるを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。（死亡等は親戚知人より通知せらるべし）●支本會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講話演說又は之に關した實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得（此際出席の衣服は總て質素たるべし）●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●玆に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條支會々員は服裝其他を質素にし集會の際には成可く綿服を着用すべし●第十三條特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す 役員の任期は一ケ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出つべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ケ月又は一ケ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評儀員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス 各役員ノ任期ハ一ケ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ退會セントスルトキニ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會々費トシテ一ケ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ

第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地 行森氏方

宇都宮支會

明治二十六年四月廿四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號　七十錢（黑塗箱入送費九錢）　六十錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會并に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中徳三郎

印刷者　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　飯田三千太郎

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

明治四十年二月十一日印刷
仝年二月十五日發行
婦人衛生雜誌第二百七號
（毎月一回二十日發行）